



# PIERCE MAYNARD

December 2024  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

## 終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。  
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。  
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、  
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

## You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.  
When you share the photos on social media, please add #nhkso.  
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

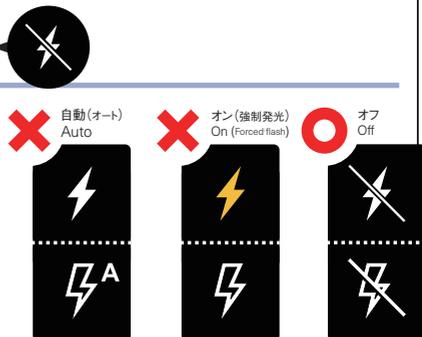


### 「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

### Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください  
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください  
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください  
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください  
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください  
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください  
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)  
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください  
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします  
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

# PHILHARMONY

## CONTENTS

DECEMBER 2024

# 12

- 8 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 18 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 24 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 30 [シリーズ] **N響百年史** | 第51回 | **喧嘩太郎、ローゼンシュトック** 片山杜秀
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 34 2025年1月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 36 チケットのご案内
- 37 2024–25定期公演プログラム
- 39 2025–26定期公演プログラム
- 42 特別公演／各地の公演／海外公演
- 49 曲目解説執筆者・歌詞対訳者／N響の出演番組
- 50 特別支援・特別協力・賛助会員
- 54 みなさまの声をお聞かせください！
- 55 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

### Artist Profiles & Program Notes

- 56 Program A
- 61 Program B
- 65 Program C
- 69 The Subscription Concerts Program 2024–25
- 71 N響関連のお知らせ
- 72 N響の社会貢献
- 73 役員等・団友

# NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター:篠崎史紀

第1コンサートマスター:郷古 廉

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調
- 飯塚歩夢
- 宇根京子
- 大鹿由希
- 倉富亮太
- 後藤 康
- 小林玉紀
- 高井敏弘
- 東條大河
- 猶井悠樹
- 中村弓子
- 降旗貴雄
- 松田拓之
- 三又治彦
- 宮川奈々
- 山岸 努
- 横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
- ◎森田昌弘
- 木全利行
- 齋藤麻衣子
- 嶋田慶子
- 白井 篤
- 田中晶子
- 坪井きらら
- 丹羽洋輔
- 平野一彦
- 船木陽子
- 俣野賢仁
- 村尾隆人
- 矢津将也
- 山田慶一
- 横島礼理

横山俊朗  
米田有花

\* 湯原佑衣

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
- ◎村上淳一郎
- ☆中村翔太郎
- 小野 聡
- 小島茂隆
- \* 粟林衣李
- 坂口弦太郎
- 谷口真弓
- 飛澤浩人
- 中村洋乃理
- 松井直之
- 三国レイチェル由依
- # 御法川雄矢
- 村松 龍

## チェロ

- ◎辻本 玲
- ◎藤森亮一
- 市 寛也
- 小島幸法
- 中 実徳
- 西山健一
- 藤村俊介
- \* 藤森洗一
- 宮坂拓志
- 村井 将
- \* 矢部優典
- 山内俊輔
- 渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀
- 市川雅典
- 稲川永示
- 岡本 潤
- 今野 京
- 西山真二
- 本間達朗
- 矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之
- ◎神田寛明
- 梶川真歩
- # 中村淳二

## オーボエ

- ◎吉村結実
- 池田昭子
- 坪池泉美
- 和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭
- ◎松本健司
- 山根孝司

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣
- ◎水谷上総
- \* 大内秀介
- 佐藤由起
- 森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志
- 石山直城
- 勝俣 泰
- 木川博史
- 庄司雄大
- 野見山和子

## トランペット

- ◎菊本和昭
- ◎長谷川智之
- 安藤友樹
- \* 藤井虹太郎
- 山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光
- ◎新田幹男
- 池上 亘
- 黒金寛行
- 吉川武典

## テューバ

- 池田幸広

## ティンパニ

- ◎植松 透
- ◎久保昌一

## 打楽器

- 石川達也
- 黒田英実
- 竹島悟史

## ハーブ

- 早川りさこ

## ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉
- 黒川大亮

## ライブラリアン

- 沖 あかね
- 木村英代

こちらの2次元コードから  
楽員の詳しいプロフィールが  
ご覧いただけます。



<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、\*契約)

# Special Thanks



## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company



[bmw.co.jp](http://bmw.co.jp) BMWカスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437

※写真の車は日本仕様とは異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。

THE i7  
BAYERISCHE MOTOREN WERKE



世界をつなぐ、あたらしい空へ。





OUR HIFI JOURNEY  
WITH YOU NEVER ENDS



お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口 TEL: 0570-011-808  
※上記番号でつながらない場合は TEL:053-460-3409 月～金曜日 10:00～17:00 (土日・祝日・センター指定休日を除く)  
<https://jp.yamaha.com/av/>

株式会社ヤマハミュージックジャパン



この活動を広めるために作成した  
ロゴマークです

## 文化芸術・集客エンタメをSDGsの 18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと<sup>※</sup>

# ぴあ

※1998年に発表した、  
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第2025回

NHKホール

11/30 土 6:00pm

12/1 日 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ

ソプラノ

クリスティアーネ・カルク\*

コンサートマスター

郷古 廉



令和6年度(第79回)文化庁芸術祭連携公演

シェーンベルク生誕150年

ワーグナー

楽劇「トリスタンとイゾルデ」

—「前奏曲と愛の死」[17']

R. シュトラウス

「ばらの花輪」作品36-1\*[3']

R. シュトラウス

「なつかしいおもかげ」作品48-1\*[4']

R. シュトラウス

「森の喜び」作品49-1\*[4']

R. シュトラウス

「心安らかに」作品39-4\*[5']

R. シュトラウス

「あすの朝」作品27-4\*[4']

— 休憩(20分) —

シェーンベルク

交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5  
[46']

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらの2次元コードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

## ファビオ・ルイーゼ(指揮)



Fabio Luisi (指揮)

1959年、イタリア・ジェノヴァ出身。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演ではマーラー《一千人の交響曲》を指揮し、この2つの記念碑的公演で共に大きな成功を収めた。またベートーヴェン、ブラームス、ブルックナー、R. シュトラウスなどのドイツ・オーストリアの作品や、 فرانクやサン・サーンスといったフランス語圏の作品に取り組み、その歌心と情熱に溢れた指揮は、多くの聴衆の心を掴んでいる。2024年8月にはN響台湾ツアーを率い、2025年5月には「マーラー・フェスティバル」(アムステルダム・コンサートヘボウ)への招待に合わせて行われるヨーロッパツアーで指揮を務める。

これまでにチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督、ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリエヴァンド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のレコーディングではグラミー賞を受賞した。

## クリスティアーネ・カルク(ソプラノ)



Kristiane Scheller

クリスティアーネ・カルクはドイツのバイエルン州フォイトヴァンゲン生まれ。ザルツブルク・モーツァルテウム大学でハイナー・ホプフナーとウォルフガング・ホルツマイアーの元で学ぶ。在学中の2006年にはザルツブルク音楽祭にデビュー。現在までにロイヤル・オペラ、パリ・オペラ座、シカゴ・リリック・オペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場など世界の名だたる歌劇場に出演し、特にモーツァルト作品では高い評価を得てきた。今年の2月にはベルリン国立歌劇場でのドヴォルザーク《ルサルカ》タイトルロールを初めて演じ、大きな評判となった。

歌曲のジャンルでの活躍も目覚ましく、ロンドンのウィグモア・ホールには定期的に登場するほか、ウィーン楽友協会大ホール、ザルツブルク音楽祭、シュヴァルツェンベルクでのシュベールティアーデ音楽祭などに出演。今回N響と共演するR. シュトラウスは、2014年にCDをリリースしており得

意のプログラム。リリックな響きと豊かな表現力でR. シュトラウス独特の歌曲の世界を描き出す。

[室田尚子 / 音楽評論家]

## Program Notes | 岡田暁生

後期ロマン派の爛熟<sup>らんじゆく</sup>プロセスを辿<sup>たど</sup>るプログラム。ワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》は、半音階と管弦楽法による深層心理表現とエロスの解放の点で、20世紀音楽の偉大な起点であった。それはR. シュトラウスに継がれ、やがてシェーンベルクの無調に至る。《ペレアスとメリザンド》はシェーンベルクがぎりぎり<sup>ぎりぎり</sup>で調性に踏みとどまっていた最後の作品のひとつ。その意味で後期ロマン派音楽の終点である。

## ワーグナー

### 楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「前奏曲と愛の死」

チューリヒで亡命生活を送りながら《指環》に専念していたリヒャルト・ワーグナー(1813~1883)は、行き詰まりをかんじて《ジークフリート》を2幕途中で中断、気晴らしとして「小さな」[イタリア・オペラ]を構想した。これがのちに《トリスタンとイゾルデ》となる。ワーグナーがルートヴィヒ2世の召喚に応じてミュンヘンへ赴くのは1864年5月。《トリスタン》はハンス・フォン・ビューローにより翌1865年6月に初演。このときすでにワーグナーはビューローの妻コジマと深い仲になっていた。あまりに有名な前奏曲冒頭の「トリスタン和音」は、この世では永久に安息を見出せない男女の音楽的比喩である。後期ロマン派音楽ばかりか象徴主義やユークレントシュティールなど、世紀末芸術のすべてはここから生まれてきた。なおミュンヘンにおける初演には、名ホルン奏者だったリヒャルト・シュトラウスの父フランツが参加しており、リヒャルトはちょうど1歳になるところであった。

作曲年代	1857~1859年
初演	[前奏曲初演]1860年1月25日、パリ、イタリア座 [全曲初演]1865年6月10日、ミュンヘン宮廷歌劇場
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、ハーブ、弦楽

## 「ばらの花輪」作品36-1、「なつかしいおもかげ」作品48-1、 「森の喜び」作品49-1、「心安らかに」作品39-4、 「あすの朝」作品27-4

本来リートは家庭音楽であった。アマチュアが家で歌って楽しむのである。しかし世紀転換期になると、コンサートホールで披露するための管弦楽伴奏のリートが人気となる。マーラーもレーガーもプフィツナーもこのジャンルを多く作曲した。しかし意外にもリヒャルト・シュトラウス(1864~1949)に、最初からオーケストラ伴奏で構想された作品は多くない。シュトラウスは「内輪で歌って楽しむ」というリート伝統に忠実であり、《4つの最後の歌》を除くと、シュトラウスのオーケストラ歌曲のほとんどはピアノ伴奏リートをのちに編曲したものである。またそのやり方は、オーケストラで華々しく飾りたてるというより、原曲の<sup>あや</sup>綾をより繊細に描くためにオーケストラを使うという方向だ。

19世紀において「詩を読む」ことは、市民必須の教養のひとつであった。シュトラウスも夕食後は必ずゲーテなどの詩集をひもといていた。こうした常識的な家庭人としてのシュトラウスの一面は、詩の選択にもあらわれている。クロプシュトゥック(《ばらの花輪》)はいわば当時の学校教科書的な古典詩人であり、その作品を題材にとるあたりにギムナジウムの優等生としてのシュトラウスの顔がのぞく。だが彼は同時代潮流への目配りも怠らない。ピアバウム(《なつかしいおもかげ》)やデーメル(《森の喜び》《心安らかに》)やマッケイ(《あすの朝》)は、いずれも世紀転換期の詩人たちである。ピアバウムはユージェントシュティール系の雑誌で風刺的な詩を発表し、キャバレー詩人たちと懇意だった。デーメルはシェーンベルク《清められた夜》にインスピレーションを与えたことでも知られ、あられもない官能と背徳で絶大な人気を博していた。レーガーやシマノフスキもデーメルの詩に歌曲を残している。マッケイはスコットランド生まれの無政府主義者で、シェーンベルクも作品6の歌曲で彼の詩をとりあげた。いずれも世紀末的な反市民道徳が売りの詩人である。ただし面白いことに、シュトラウスがリートのために選ぶ詩は、長年連れ添った夫婦ないし恋が芽生え始めた男女の心情を歌う穏やかな内容が多い。本日のプログラムで選ばれた歌曲も例外ではない。

シュトラウスの妻パウリーネはもともと大歌手で、彼のリートの原曲のほとんどは、歌い手としてパウリーネを想定していたと思われる(《あすの朝》は結婚記念に彼女に贈られた)。夫のピアノで家庭で歌うこともあっただろうし、コンサートでの共演でもとりあげられたはずだ。パウリーネは結婚してしばらくは夫と頻繁にリサイタルをしていたのである。そして管弦楽編曲についていえば、《ばらの花輪》と《あすの朝》はパウリーネも同行した1897年のブリュッセル／パリへの演奏ツアーのためのものである。他方《なつかしいおもか

げ》と《森の喜び》の編曲目的ははっきりしていない。1918年といえば第1次世界大戦が終わった年であり、シュトラウスはイギリスの銀行に預けていた貯金を大戦中に没収されてしまったから、なんらかの経済目的があったのかもしれない。《心安らかに》は大指揮者クレメンス・クラウスの妻であり、シュトラウス・オペラのヒロインとして比類がなかった名ソプラノ、ヴィオリカ・ウルズレアクのために編曲されている。

作曲年代	[ばらの花輪] 1897年作曲・編曲 [なつかしいおもかげ] 1900年作曲、1918年編曲 [森の喜び] 1901年作曲、1918年編曲 [心安らかに] 1898年作曲、1933年編曲 [あすの朝] 1894年作曲、1897年編曲
初演	[ばらの花輪] 編曲版初演 1897年11月 [なつかしいおもかげ] 不明 [森の喜び] 不明 [心安らかに] 編曲版初演 1933年 [あすの朝] 編曲版初演 1897年11月
楽器編成	[ばらの花輪] フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン2、弦楽、ソプラノ独唱 [なつかしいおもかげ] フルート2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、弦楽、ソプラノ独唱 [森の喜び] フルート2、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン2、ハーブ、ハルモニウム、弦楽、ソプラノ独唱 [心安らかに] フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、ハーブ、ハルモニウム、弦楽、ソプラノ独唱 [あすの朝] ホルン3、ハーブ、弦楽、ソプラノ独唱

## シェーンベルク

### 交響詩「ペレアスとメリザンド」作品5

アルノルト・シェーンベルク(1874~1951)が正規の作曲レッスンを受け始めたのは20歳を超えてから。24歳で素晴らしい完成度の歌曲、作品1を作曲。ワーグナーの半音階とブラームスの室内楽を統合したような弦楽六重奏《清められた夜》(作品4)を作曲したのが25歳のとき。そして27歳で巨大規模の《交響詩「ペレアスとメリザンド」》(作品5)の作曲を開始。晩学の遅れを一気に取り戻すかのように、彼はすさまじい勢いで作品構想を拡張させていった。《ペレアス》は若きシェーンベルクの尋常ならざる膨張意志の偉大な記念碑である。

1893年に初演されたメーテルリンクの戯曲『ペレアスとメリザンド』を、オペラ化してはどうかと作曲者に示唆したのは、リヒャルト・シュトラウスである。結局《ペレアス》は上演時間50分近く、管弦楽も当時としては空前の規模の交響詩として完成されたが、ここでシェーンベルクは、ブラームスの精緻な動機変奏とワーグナーの半音階とマーラーの長大さとR. シュトラウスの管弦楽法の華麗さとを、弁証法的に統合しようとした。初演を打診されたツェムリンスキーは、作品を高く評価しつつ、あまりの複雑さに依頼を断ったという。作曲者自身が指揮した初演は大スキャンダルになり、シェーンベルクを狂人呼ばわりする新聞評すらあったという。

この作品はリスト／シュトラウスの交響詩をモデルとする、ソナタ形式と4楽章ソナタを合体させた形式となっている。また当初オペラ化を予定していただけあって、かなり具体的なプログラムがあったと思われる。アルバン・ベルクは本作品の標題について詳細な解題を残しており、それによると序奏はゴローとメリザンドの出会い。第1ヴァイオリンの陶酔的な第1主題が2人の結婚。不吉な運命を予告するような経過部のあとの潑刺としたトランペット・ソロは、ペレアスをあらわす第2主題。メリザンドとの間に愛が目覚める。総休止のあとのおどけたフルートのワルツとともに、曲は展開部＝スケルツォ楽章に入る。泉のほとり、塔、洞窟で2人の恋人は戯れるが、しばしば不吉なゴローの不協和音で断ち切られる。ハープのグリッサンドから総休止のあと、弦楽器のコラール風の楽想でアダージョ楽章が始まる。恋人の情熱的な抱擁を示唆するように音楽は高揚していくが、突然大太鼓が連打され、不吉な不協和音となってペレアスの死が描かれる。やがて第1主題が戻ってきて、メリザンドの死を描くフルートの弱音の下降モチーフ（ハープ伴奏）をはさみつつ、さまざまな既出の楽想が再現部として回想される。

この作品ですでにシェーンベルクは、とりわけ不吉な運命を連想させる箇所において、ほとんど無調に近づいている。調性に回収できないこうした響きにおいて重要な役割を果たすのが対位法だ。何気ない伴奏声部までびっしり対旋律として彫り込む執念は、ほとんど常軌を逸しているとすらいえる。巨大オーケストラのすべてのパートが動機なのだ。だから聴き手には尋常ならざる集中力が要求される。ただ快適に耳を傾けることが許されない。初演スキャンダルの一因は、この過剰なまでの聴き手への芸術的要求だったのかもしれない。

作曲年代	1902～1903年
初演	1905年1月25日、ウィーン楽友協会
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3(バス・クラリネット1)、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン8、トランペット4、トロンボーン5、チューバ1、ティンパニ2、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、中太鼓、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ2、弦楽

## R. シュトラウス 「ばらの花輪」作品36-1 歌詞対訳

*Das Rosenband Op. 36-1 (The Rose Chain)*

詩◎フリードリヒ・ゴットリーブ・クロプシュトゥック | Text: Friedrich Gottlieb Klopstock

訳◎岡田暁生 | Translation: Akeo Okada

Im Frühlings Schatten fand ich sie  
Da band ich sie mit Rosenbändern:  
Sie fühlt' es nicht und schlummerte.

Ich sah sie an; mein Leben hing  
Mit diesem Blick an ihrem Leben:  
Ich fühlt' es wohl und wußt' es nicht.

Doch lispelt' ich ihr sprachlos zu  
Und rauschte mit den Rosenbändern.  
Da wachte sie vom Schlummer auf.

Sie sah mich an; ihr Leben hing  
Mit diesem Blick an meinem Leben  
Und um uns ward Elysium.

春の木陰にぼくは彼女を見つけ  
そこに彼女をばらの花輪で結んだ  
彼女は気づかず、まどろんでいた

ぼくは彼女を見つめた。ぼくの人生は  
この眼差しによって彼女の人生と結ばれた  
ぼくはそのことを感じたが、まだわかってはいなかった

だけどぼくが口ごもりながらささやきかけ  
ばらの花輪を揺ると  
彼女はまどろみから覚めた

彼女はぼくを見つめ、彼女の人生は  
その眼差しによってぼくの人生と結ばれた  
そしてぼくたちのまわりは天国になった

## R. シュトラウス 「なつかしいおもかげ」作品48-1 歌詞対訳

*Freundliche Vision Op. 48-1 (A Welcome Vision)*

詩◎オットー・ユーリウス・ピアバウム | Text: Otto Julius Bierbaum

訳◎岡田暁生 | Translation: Akeo Okada

Nicht im Schlafe hab' ich das geträumt,  
Hell am Tage sah ich's schön vor mir:  
Eine Wiese voller Margeritten;  
Tief ein weißes Haus in grünen Büschen;  
Götterbilder leuchten aus dem Laube.  
Und ich geh' mit Einer, die mich lieb hat,  
Ruhigen Gemütes in die Kühle  
Dieses weißen Hauses, in den Frieden,  
Der voll Schönheit wartet, daß wir  
kommen.

眠りの中でその夢を見たのではない  
輝く昼の光の中で眼前に美しいそれを見たのだ  
マーガレット咲き乱れる草原  
緑の茂みの奥の白い家  
木々の葉の間から神々の姿が輝き  
そして私は私を愛してくれる人とともに歩む  
穏やかな気持ちで涼やかな空気の中へ  
この白い家の涼やかな空気、平和の中へ  
そこには美が満ち、私たちを待っている

Und ich geh' mit einer, die mich lieb hat,  
in den Frieden voll Schönheit.

そして私はある人と、私を愛してくれる人とともに  
歩む  
美に満ちた平和の中へ

A

30. NOV. & 1. DEC. 2024

## R. シュトラウス 「森の喜び」作品49-1 歌詞対訳

*Waldseligkeit Op. 49-1 (Bliss in the Woods)*

詩◎リヒャルト・デーメル | Text: Richard Dehmel

訳◎岡田暁生 | Translation: Akeo Okada

Der Wald beginnt zu rauschen,  
Den Bäumen naht die Nacht,  
Als ob sie selig lauschen,  
Berühren sie sich sacht.

森がざわめき始める  
木々に夜が近づいてくる  
まるで至福の中で耳を澄ませるように  
木々はやさしく触れ合う

Und unter ihren Zweigen,  
Da bin ich ganz allein,  
Da bin ich ganz mein eigen:  
Ganz nur Dein!

そして木々の小枝のもと  
そこでは私はたったひとりだ  
そこでは私はあなただけのものだ  
まったくあなただけのものなのだ!

## R. シュトラウス 「心安らかに」作品39-4 歌詞対訳

*Befreit Op. 39-4 (Released)*

詩◎リヒャルト・デーメル | Text: Richard Dehmel

訳◎岡田暁生 | Translation: Akeo Okada

Du wirst nicht weinen. Leise, leise  
wirst du lächeln und wie zur Reise  
geb' ich dir Blick und Kuß zurück.  
Unsre lieben vier Wände, du hast sie  
bereit,  
ich habe sie dir zur Welt geweitet;  
O Glück!

お前は泣いたりしないだろう。かすかに  
微笑むだろう、そして旅立ちのときのように  
私も返礼に眼差しとちづけを返そう  
私たちの愛しい部屋、それはお前がしつらえた  
それを私はお前のための世界にした  
なんたる至福!

Dann wirst du heiß meine Hände fassen  
und wirst mir deine Seele lassen,

それからお前は熱く私の手をにぎり  
私にお前の魂をゆだねるだろう

läßt unsern Kindern mich zurück.  
Du schenktest mir dein ganzes Leben,  
ich will es ihnen wieder geben;  
O Glück!

Es wird sehr bald sein, wir wissen's beide,  
wir haben einander befreit vom Leide,  
so gab' ich dich der Welt zurück!  
Dann wirst du mir nur noch im Traum  
erscheinen  
und mich segnen und mit mir weinen;  
O Glück!

お前は私の子供たちのもとに私を残して去る  
お前は命のすべてを私にくれた  
だから私も子供らにそれを再び与えよう  
なんたる至福!

それは間もなくだろう、私たちにはわかっている  
私たちは互いに悲しみから解放されている  
だから私はお前を世界へと返したのだ  
そしてお前はもはや夢の中でだけ私の前に現れ  
私を祝福し、ともに泣くだろう  
何たる至福!

## R. シュトラウス 「あすの朝」作品27-4 歌詞対訳

*Morgen Op. 27-4 (Tomorrow)*

詩◎ジョン・ヘンリー・マッケイ | Text: John Henry Mackay

訳◎岡田暁生 | Translation: Akeo Okada

Und morgen wird die Sonne wieder  
scheinen  
Und auf dem Wege, den ich gehen werde,  
Wird uns, die Glücklichen, sie wieder  
einen  
Inmitten dieser sonnenatmenden Erde ...

Und zu dem Strand, dem weiten,  
wogenblauen,  
Werden wir still und langsam  
niedersteigen,  
Stumm werden wir uns in die Augen  
schauen,  
Und auf uns sinkt des Glückes stummes  
Schweigen ...

そしてあすの朝、太陽は再び輝くだろう  
そして私の歩むだろう道で  
太陽は幸せな私たちを再び一つにしてくれる  
だろう

陽光を呼吸するこの大地の真ただ中で

そして広大で青波の打ち寄せる浜辺へと

私たちは静かにゆっくりと降りてゆくだろう

黙って私たちは目と目をみつめ合うだろう

そして私たちの頭上に沈黙の喜びが沈んでいく

A 2024, DECEMBER  
[第2025回]

おめでとう 生誕150周年!

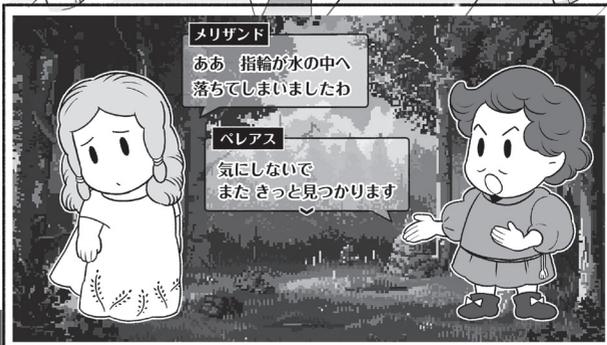
## アルノルト・シェーンベルク

Arnold Schönberg (1874-1951)

シェーンベルクといえば、無調音楽への道<sup>ひら</sup>を拓き、十二音技法を提唱した人! 革新的な作曲家として知られる。ただ、それは作曲家後半生のこと。初期作品の《交響詩「ペレアスとメリザンド」》では、イメージを喚起させるモチーフや、後期ロマン派的な濃密な響きのなかで、狂気と紙一重の才能を爆発させている。



きらめく指輪、塔から垂れるメリザンドの髪  
具体的なシーン描写は、  
まるでゲーム音楽の先駆けのよう  
イラストレーション: ©IKE



## ペレアスとメリザンド

鬱蒼とした森のなか、王子ゴローは水辺で不思議な女性メリザンドに出会い、妻として<sup>めと</sup>娶る。しかし、あろうことかゴローの異父弟ペレアスがメリザンドと恋仲になってしまう。ゴローは、結婚指輪をなくしたメリザンドをなじり、塔から垂れるメリザンドの髪を撫でるペレアスを非難する。そして2人の密会の場面を見て嫉妬に狂い、ついにはペレアスを殺してしまう。ペレアスを失ったショックで、メリザンドもあとを追うように息を引き取る。

PROGRAM

B

第2026回

サントリーホール

12/5 木 7:00pm

12/6 金 7:00pm

指揮 ファビオ・ルイーゼ | プロフィールは p. 9

ピアノ ネルソン・ゲルナー

コンサートマスター 川崎洋介

スメタナ

歌劇「売られた花嫁」序曲 [7']

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30  
[41']

I アレグロ・マ・ノン・タント

II 間奏曲: アダージョ

III 終曲: アラ・ブレーヴェ

—— 休憩(20分) ——

ムソルグスキー(ラヴェル編)

組曲「展覧会の絵」[35']

プロムナード

I ノーム

プロムナード

II 古い城

プロムナード

III チュイルリーの庭

IV ブイドロ

プロムナード

V 卵のからをつけたひなの踊り

VI サミュエル・ゴールドデンベルクとシュミイレ

VII リモージュの市場

VIII カタコンブ

IX バーバ・ヤガーの小屋

X キエフの大きな門

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらの2次元コードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

## ネルソン・ゲルナー(ピアノ)



©Marco Borggre

1969年、アルゼンチンのサンペドロ生まれ。1986年、ブエノスアイレスのフランツ・リスト国際コンクールで第1位となり、これをきっかけに受けた奨学金でジュネーヴ音楽院に留学、1990年にはジュネーヴ国際音楽コンクールで優勝した。長年ジュネーヴを拠点としながら世界の一流ホールでリサイタルを行い、また著名オーケストラと共演を重ねている。室内楽奏者としても精力的で、マルタ・アルゲリッチらと定期的に共演するほか、

2024-25シーズンはニ・フェン、エドガー・モローと新たに結成したトリオでヨーロッパ各地をまわる。

アーティストック・アドバイザー委員を務めるワルシャワのフレデリック・ショパン研究所からはユニークなレパートリーによる録音を数多くリリース。そのほかの録音とともに、ディアパゾンドールをはじめ数々の賞に選出されている。

今回はかつて録音した音源も高く評価されているラフマニノフの《ピアノ協奏曲第3番》を演奏、エネルギーかつ情熱的な音楽に期待できそうだ。

[高坂はる香／音楽ライター]

## Program Notes | 高橋健一郎

今回のプログラムは、スラヴ音楽の多彩な魅力を存分に堪能させてくれる。まず、スメタナの《「売られた花嫁」序曲》は、軽快なリズムとメロディでボヘミアの活気を伝え、続くラフマニノフの《ピアノ協奏曲第3番》は、ロシアの情感と壮大さをヴィルトゥオーゾのピアノで展開する。そして、ラヴェルの精緻なオーケストレーションによって新たな命を吹き込まれたムソルグスキーの《展覧会の絵》は、ロシアの土壌と西欧の洗練が見事に融合した響きを奏でる。

### スメタナ

## 歌劇「売られた花嫁」序曲

チェコ国民楽派の祖と称されるベドルジヒ・スメタナ(1824~1884)の2作目のオペラ《売られた花嫁》は、チェコ・オペラの最高傑作のひとつとされる。ストーリーは以下の通り。村娘マルジェンカには恋人イエニークがいたが、両親は地主ミーハの息子ヴァシェックと結婚させようとする。結婚仲介人がイエニークに大金を示してマルジェンカから手を引くよう要求すると、イエニークは「マルジェンカはミーハの息子以外とは結婚しない」という条件をつけて承諾。村人たちは恋人を売ったイエニークを非難するが、実はイエニークが

ミーハの先妻の子だと判明する。こうして、恋人たちはめでたく結ばれる。この明るくユーモラスな物語の中には、当時の農村生活や風俗が色濃く反映されている。

スメタナは「安易な民謡の引用」を嫌ったことで知られ、このオペラにおいても音楽のフォークロア的要素の使用は最小限にとどめている。それでいて、全体的に軽快で快活なリズムと旋律がボヘミアの地方色をはっきり伝えているように感じられる点が、「国民オペラ」たる所以であろう。

〈序曲〉はオペラ全体の中でも特に有名な部分であり、その軽やかでエネルギッシュなリズムが特徴である。独立した演奏会用作品としても人気が高く、しばしば取り上げられる。冒頭の生き生きとした主題が活気に満ちた雰囲気を作り出し、2分の2拍子の急速なテンポで進んでいく。弦楽器の対位法的な扱いが随所に見られ、緻密なアンサンブルが求められるのも特徴的である。

作曲年代	1863年から1866年。その後改訂が施され、1870年9月に決定稿が完成
初演	1866年5月30日、プラハのチェコ仮劇場にて、作曲者自身の指揮による。決定稿による上演は、1870年9月25日、同劇場にて
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

## ラフマニノフ

### ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

1909年、セルгей・ラフマニノフ(1873~1943)は初めてのアメリカ演奏旅行に向けてこの協奏曲を作曲し、同年11月にニューヨークで自らピアノを演奏して初演を行い、見事な成功を収めた。この作品は名ピアニスト、ヨーゼフ・ホフマンに献呈されている。ロシアの聖歌を思わせる主題が全楽章を統一的に結びつける一方、華麗なピアノ技法が展開されている点で、《第2番》との共通点が見られるが、構成の洗練度は《第3番》でさらに高まっている。斬新なモダニズム音楽が注目を集め始めた時代に、ロシア音楽の伝統的な層の中からモチーフを掘り起こし、それを華麗なピアノリズムと結びつけることで自分の道を貫いたラフマニノフの傑作である。

**第1楽章** アレグロ・マ・ノン・タント、自由なソナタ形式。控えめな動きで狭い音程間を行き来する第1主題に関して、古い聖歌の旋律との類似性が指摘されている。それに対して、作曲者自身は民謡や聖歌からの借用ではなく、ただ「歌い手が歌うように旋律を歌わせたかった」と述べている。ラフマニノフが子供のころから親しみ、体に染み込んでいた聖歌のイントネーションが無意識に引き出されたののだろうか。夢見心地のような歌謡的な第2主題も、対旋律と絡み合いながら、ロシア民謡を連想させる壮大な景色を描く。

**第2楽章〈間奏曲〉** アダージョ、3部形式(変奏曲)。優美でメランコリックな主題がさまざまに変奏されていく。中間部では軽快なリズムとなり、ワルツが優しく奏でられるが、ここで第1楽章の第1主題を連想させる楽想が見え隠れする。

**第3楽章〈終曲〉** アラ・ブレーヴェ、自由なソナタ形式。第2楽章の終盤の勢いのまま、切れ目なく始まる。第1主題はロシア正教の復活祭の賛歌を思わせる華やかさを持ち、そのエネルギーに突き動かされるかのように音楽が疾走する。展開部では第1楽章第2主題を基にした楽想が現れ、きらびやかなピアノの高音域、鋭いリズムで高揚感を強め、さらに再現部から終曲部分にかけての絢爛豪華な音の洪水が聴く者を圧倒する。

作曲年代	1909年
初演	1909年11月28日、ラフマニノフ自身のピアノ、ウォルター・ダムロッシュ指揮、ニューヨーク交響楽団、ニューヨークのカーネギー・ホールにて
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、小太鼓、弦楽、ピアノ・ソロ

## ムソルグスキー(ラヴェル編)

### 組曲「展覧会の絵」

原曲はロシアの作曲家モデスト・ムソルグスキー(1839~1881)が友人の建築家・デザイナーであるガルトマンの遺作展の印象をもとにピアノ独奏曲として作曲したもの。〈プロムナード〉と10曲からなる。〈プロムナード〉は展覧会を歩くムソルグスキー自身を表し、冒頭のほか、第1、第2、第4曲のあとに奏される(なお、ラヴェル版では削除されているが、原曲では第6曲のあとにも挿入される)。五音音階の旋律と不規則な拍子や不安定な調性をもち、ロシア民謡を思い起こさせる。

**第1曲〈ノーム〉**は、地の精の奇妙な姿と陰鬱な感情を描き、**第2曲〈古い城〉**では中世の吟遊詩人の淡々とした歌が流れる。**第3曲〈チュイルリーの庭〉**は、パリのチュイルリー庭園で子供たちが騒ぐ場面を伝える。

**第4曲〈ブイドロ〉**のタイトルはポーランド語で家畜の牛を意味し、この曲も牛車の重たい動きを表していると考えられるが、比喩的に「虐げられた人々」を描いているという説もある。**第5曲〈卵のからをつけたひなの踊り〉**はバレエの衣装デザインを基にした曲で、子供たちが卵の殻をつけた衣装を着て駆け回る様子が描写される。**第6曲〈サミュエル・ゴールデンベルクとシュミイレ〉**は、金持ちと貧者という対照的なユダヤ人の2枚の絵に基づいており、木管と弦の低音がゴールデンベルクを、トランペットのせわしない音型がシュミイレを表すとされる。

**第7曲〈リモージュの市場〉**は、フランスの市場の女性達のおしゃべりを音楽化したもの。**第8曲〈カタコンブ〉**は、ガルトマンがカタコンブ(地下墓地)を訪れる場面を和音の連

続で表す。後半は「死者の言葉による死者との対話」と名付けられ、ガルトマンの魂がムソルグスキーに呼び掛け、頭蓋骨が光を放ち始めるという。第9曲〈バーバ・ヤガーの小屋〉は、スラブの昔話に登場する「バーバ・ヤガー」の小屋を模した時計のスケッチを基にする。箒ほうきに乗って飛び回り、子供たちを追い回すバーバ・ヤガーの姿が見えるような曲である。

終曲の第10曲〈キエフの大きな門〉は、キエフの門の再建計画のデザイン案に基づく。絵には古代ロシアの教会が描かれ、それに呼応するように曲の中でロシア聖歌の旋律や教会の鐘が鳴る。最後は〈プロムナード〉の旋律が鐘の音の中に溶け込みながら響き渡り、まるでムソルグスキー自身が絵の中に入り込んだかのようなようである。

この組曲はスラブの神話やキリスト教、フランス、ユダヤ世界など、ロシア文化の多面性を伝えるテーマに彩られている。作曲家の死後しばらく忘れられていたが、1922年、クーセヴィツキーの委嘱によりモーリス・ラヴェル(1875~1937)がオーケストレーションを施し、その結果、土着的で素朴な響きを持つ原曲に、色鮮やかで華やかな響き加わり、世界的な人気を獲得するに至った。

作曲年代	原曲は1874年、編曲は1922年
初演	1922年10月19日、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、パリ・オペラ座にて
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、バス・クラリネット1、アルト・サクソフォーン1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ユーフォニアム1、ティンパニ1、グロックンシュピール、鐘、シロフォン、トライアングル、ラチェット、ムチ、小太鼓、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、ハープ2、チェレスタ1、弦楽

「独創的で、斬新さとエネルギーにあふれている」と評されたロシアの作曲家。ほとんど独学で作曲をし、ロシア五人組に名を連ねるも、生前は成功から遠く、生活が安定することなく42歳で亡くなった。独特な雰囲気を持つその作品は後代にも多くの影響を与え、オーケストレーションの妙手であるラヴェルは、ピアノのための作品《展覧会の絵》を華やかな管弦楽作品にアレンジした。現在ではムソルグスキーの代表作として聴衆を魅了している。

ロシア五人組のひとり

# モデスト・ムソルグスキー

Modest Mussorgsky (1839-1881)

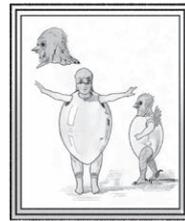
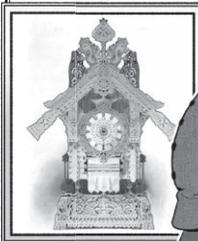
B

2024  
DECEMBER  
[第2026回]



## ブロムナード

ブロムナードとは、遊歩道・散歩、といった意味。クラシックでは、野外で行われる開放的な演奏会や、ポピュラーな曲目を集めた演奏会、リラックスした雰囲気の演奏会などを指して「ブロムナード・コンサート」とよく言われる。《展覧会の絵》の〈ブロムナード〉は本来の言葉通りの意味で、絵を見ながらそぞろ歩く様子が描かれる。



友人の絵画を見てまわるムソルグスキー  
あれ? ガルトマンの自画像も!  
イラストレーション: ©IKE

PROGRAM

C

第2027回

NHKホール

12/13 **金** 7:00pm

12/14 **土** 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイーシ | プロフィールはp.9

テノール クリストファー・ヴェントリス ★※

男声合唱 東京オペラシンガーズ ★(合唱指揮:西口彰浩)

コンサートマスター 川崎洋介

※当初発表の出演者から変更となりました。

リスト

交響詩「タッソー」[19']

—— 休憩(20分) ——

リスト

ファウスト交響曲\*[65']

- I ファウスト
- II グレートヘン
- III メフィストフェレス

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは54ページをご覧ください



こちらの2次元コードから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## クリストファー・ヴェントリス(テノール)



©Matthew Buss

イギリス出身のテノール。最高峰のワーグナー歌手として知られ、特に当たり役の《ワルキューレ》ジークムント、《パルシファル》タイトルロールで、バイロイト祝祭劇場、ウィーン国立歌劇場をはじめ、世界の主要歌劇場への出演を重ねる。直近では今年10月、ファビオ・ルイーゼが音楽監督を務めるダラス交響楽団で、ルイーゼ自身のタクトにより行われた《ニーベルングの指環》全曲上演のジークムント役を歌った。ほかにもブリテン《ピーター・グライムズ》タイトルロール、ベルク《ヴォツェック》鼓手長、ワイル《マハゴニー市の興亡》ジミー・マホーニー、ヤナーチェク《イェヌーフア》ラツァなどで成功を収めている。またミラノ・スカラ座、英国ロイヤル・オペラ、チューリヒ歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン国立歌劇場、パリ国立オペラ、メトロポリタン歌劇場などの舞台に立ち、ハイティンク、ヤノフスキ、ビシュコフ、ラトル、ルイーゼ、ティーレマン、ウェルザー・メスト、ネゼ・セガン、ネルソンスらの指揮者と共演してきた。N響とは今回が初共演。

## 東京オペラシンガーズ(男声合唱)

1992年、「世界的水準のコーラスを」という故小澤征爾氏の要請を受けて、東京を中心に活動する中堅、若手声楽家によって結成。同年から「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)、2004年から「東京・春・音楽祭」に継続的に出演してきた。また、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団(サイモン・ラトル、小澤征爾指揮)、シカゴ交響楽団(リッカルド・ムーティ指揮)、バイエルン国立歌劇場(ウォルフガング・サヴァリッシュ指揮)など、海外オーケストラ、歌劇場の来日公演でも共演。海外での評価も高く、エディンバラ音楽祭(1999年)、上海国際芸術祭(2018年)、上海交響楽団演奏会(2019年)、北京国際芸術祭「相約北京」(2020年)に出演した。

N響とは、2009年にオラトリオ《天地創造》で初共演。以来、年末のベートーヴェン《第9》公演をはじめ、共演を重ねている。N響が登場する「東京・春・音楽祭」の「ワーグナー・シリーズ」には第1回(2010年)から出演。2024年3月、マレク・ヤノフスキ指揮の《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式)では強靱な合唱で存在感を示した。《ファウスト交響曲》でも迫力の合唱を聴かせてくれるだろう。

[柴辻純子／音楽評論家]

19世紀におけるヨーロッパ音楽の諸相を知りたいと思えば、ひとりフランツ・リスト(1811~1886)の生涯とその業績を追いかければ事足りると云われるほど、この音楽家の活躍は群を抜いている。一般的には超絶技巧を駆使するピアニストとしてのイメージが先行しているのだろうが、むしろ、オーケストラ音楽を手がけ始めた以降の後半生が抜群に面白い。あらゆる土地とひととの縁をつなぎ、次代の音楽をもたらしたリストの実像が、N響とルイーゼの手によってあらたに蘇る。

## リスト

### 交響詩「タッソー」

1848年、リストはヨーロッパ中を駆け巡るピアニストとしてのキャリアを終え、ヴァイマル宮廷劇場の楽長に就任した。ワーグナー作品をはじめとする新作オペラの初演と指揮を積極的に手がけ、ヴァイマルは当時の先進的な音楽の発信地として重きを成すに至る。

作曲家としても、リストはエクトル・バルリオーズに出逢って以来培ってきた、新しい管弦楽曲の可能性を開拓し、13曲の交響詩、2曲の交響曲を生み出した。《タッソー》は2作目の交響詩にあたる。1849年はゲーテの生誕100年にあたり、ヴァイマルで上演されたゲーテの戯曲『トルクヴァート・タッソー』の序曲として作曲・初演された(その後1850~1851年、1854年に改訂)。

もっとも、リストは、このトルクヴァート・タッソーという16世紀に活躍したイタリアの詩人が直面した葛藤、精神病を患った点、それらをより劇的に描き出しているバイロン卿の詩『タッソーの嘆き』からも着想を得たと語っており、ゲーテの戯曲だけに注目していたわけではない。リストは本作に「嘆きと勝利 *lamento e trionfo*」という副題をつけており、タッソーが代表作『解放されたエルサレム』を書き上げつつも精神的に苦しんだ姿を通じて、ベートーヴェン的な「苦悩から勝利へ」という概念を、単一楽章という新しいかたちでまとめあげた。リスト自身は、全体を(苦悩と勝利の2つではなく)3つに分けうる、と説明しており、それぞれが詩人ゆかりの地、ヴェネツィア、フェラーラ、ローマに対応している。特定の出来事よりも巡礼の旅の精神的な遍歴を交響的に描くことによって、独自の標題音楽の理念を確立させている。

作曲年代	1847~1849年(その後1850~1851年、1854年に改訂)
初演	1849年8月28日、ヴァイマル、作曲家自身の指揮、ゲーテの戯曲《トルクヴァート・タッソー》の序曲として
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、トライアングル、テナー・ドラム、シンバル、大太鼓、ハーブ、弦楽

## ファウスト交響曲

リストがゲーテによる畢生<sup>ひっせい</sup>の大作『ファウスト』への興味を抱いたのは、ベルリオーズによる勧めがきっかけだった。1830年、パリでの《幻想交響曲》初演に立ち会ったリストは、知り合ったばかりのベルリオーズの新作を激賞し、原曲に忠実なピアノ編曲まで作成するほどの入れ込みを見せた。おそらくはこの《幻想交響曲》こそが、リストにおける新しい標題音楽への出発点となり、その理想をいつかは『ファウスト』への付曲で具現化したい、と想いを巡らせたのではあるまいか（当時は第1部だけが出版されていた。第2部は作家の死の年、1832年に出版される）。

『ファウスト』に心奪われたのがリストだけではないことは、音楽史における錚々たる作曲家たちが証明してくれる。そのうちのひとり、リヒャルト・ワーグナーは、1839年、ベルリオーズの（《幻想交響曲》ではなく）《ロメオとジュリエット》に感銘を受け、『ファウスト』で交響曲を書くことと決意したが、やがて《リエントゥイ》以降のオペラ諸作に時間を奪われ、この構想は唯一《ファウスト序曲》として結実した。リストはこの序曲を1852年5月11日、ヴァイマルで指揮する。ベルリオーズの《ファウストの劫罰》<sup>ごうばつ</sup>にも刺激を受けたリストはいよいよ長年の懸案を解決すべく作曲にとりかかり、1854年8月から10月のわずか2か月で初稿が完成。その後、オーケストレーションが拡大され、第3楽章終結部のテノール独唱・合唱が書き加えられた。

1857年9月5日、ヴァイマルで初演された際は、ゲーテとシラーを顕彰する記念碑の除幕式と相まって、大きな熱狂とともに迎えられたという。この作品があらゆる意味での恩人・ベルリオーズに献呈されたのは、ある意味当然とも言えるだろう。その後も作品には手が加えられ、現在演奏される改訂稿が完成したのは1880年のことだった。リストにとって、本作が特別な意味を持っていたことが偲ばれる。

この「交響曲」は、単一楽章を基本とする「交響詩」とは明確に性格を異にしており、その規模も大きい。急緩急の3つの楽章から成るが、もとの作品のストーリーをそのまま追いかけるというよりは、主要な登場人物、ファウスト、グレートヒェン、メフィストフェレスの3人をそれぞれの楽章に割り当て、その性格を描くという趣が強い。増三和音の3つの構成音を半音ずつずらしながら4回用いることで、1オクターヴに含まれる12音をすべて使いきる第1楽章の主要主題は、ファウストの晦渋<sup>かいじゆう</sup>な性格、あるいはその叡知<sup>えいち</sup>を同時に表しているのだろう。グレートヒェンの柔らかな主題に彩られた第2楽章は、リストが手がけたもっとも美しい楽想のひとつ。これらの主題が戯画的・露悪的に変形する第3楽章によって、そのふたりを嘲笑するかのようなメフィストフェレスの活躍が描かれるも（《幻想交響曲》第5楽章の影響が顕著）、最後に加えられた第2部のクライマックス「神秘の合唱」によって、崇高な大団円へと導かれる。

作曲年代	1854～1857年、1880年改訂稿完成
初演	1857年9月5日、ヴァイマル、作曲者自身の指揮
楽器編成	フルート3 (ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、 チューバ1、ティンパニ1、シンバル、トライアングル、ハーブ、オルガン、弦楽、男声合唱、テノール 独唱

## リスト ファウスト交響曲 歌詞対訳

*Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern (A Faust Symphony in Three Character Pictures)*

詩◎ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ | Text: Johann Wolfgang von Goethe

訳◎広瀬大介 | Translation: Daisuke Hirose

Alles Vergängliche  
ist nur ein Gleichnis;  
das Unzulängliche,  
hier wird's Ereignis;  
das Unbeschreibliche,  
hier ist es getan;  
das Ewigweibliche  
zieht uns hinan.

なべて 過ぎ去りしものは  
ただ その似姿に過ぎぬ  
欠けたるものは  
ここに 補われ  
筆舌に 尽くしがたきものは  
ここに 成就し  
永遠なる 女性的なるものが  
我らを 高みへと誘う

サロンの世界で超絶技巧を披露するアイドル・ピアニスト。そんなきら煌びやかなイメージのリストだが、読書家の一面もあり、文学・哲学・神学、と多くの本を読んでいた。ゲーテ『ファウスト』を読んだあとはすっかりファウスト伝説にも魅了され、管弦楽曲《ファウスト交響曲》のほかにも、《学生歌》《兵士の歌》といった歌曲、ピアノ曲および管弦楽曲の《メフィスト・ワルツ》など、生涯にわたってこの伝説を題材とした作品を書き続けた。

C 2024, DECEMBER  
[第2027回]



Franz Liszt (1811-1886)

# フランツ・リスト

ファウスト伝説に魅了された

## ゲーテ『ファウスト』

ドイツの民間伝説をもとにした、ファウスト博士と悪魔メフィストフェレスの物語。悪魔に魂を売るも、ファウストは葛藤し、最期は救済される。リストだけでなく、シューベルトやベルリオーズも、インスパイアされて作品を残している。この時代の文化人に多大な影響を与えた古典的名作、一度読んだら、あなたもハマること間違いなし！



悪魔メフィストフェレスに  
驚くファウスト、もといリスト  
イラストレーション: ©IKE

# N響音百年史

## 第五十二回 喧嘩太郎、ローゼンシュトック

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。新交響楽団の専任指揮者に就任したヨゼフ・ローゼンシュトックは、トスカニーニ直伝の新古典主義的演奏美学をもって、東京の音楽界に激烈な革新をもたらします。

絨毯を剥がせ！ 反響板を釣り下げろ！

ヨゼフ・ローゼンシュトックは革新者だった。新交響楽団(現NHK交響楽団)の専任指揮者(今日風にいえば音楽監督と思って差し支えあるまい)に就任してから、東京の音楽界をあっという間に変えていった。そして、突っ走った。新交響楽団の演奏の技量や性質、レパートリーのことばかりではない。たとえばホールの音もだ。新交響楽団の主たる演奏会場である、日比谷公会堂の音響環境に注文を付け、改めさせたのである。

1936(昭和11)年9月21日のローゼンシュトックと新交響楽団による新コンビのお披露目コンサートのときのこと。当日午前、指揮者は初めて日比谷公会堂の舞台上がってみた。練習を始める。響きがおかしい。音がぼんやりしている。ひどく霞<sup>かす</sup>んでいる。昨日までの往原<sup>まへばら</sup>の練習場とは違いすぎる。トスカニーニ流を信奉するローゼンシュトックは鋭利な音が欲しい。そのように昨日まで新交響楽団を、にわか仕込みには違いないが、なんと14日も練習日をとって鍛錬してきた。それなのにどうしたところか。

理由は明白だった。ステージに絨毯<sup>じゅうたん</sup>が敷きつめてあり、音を吸収している。ローゼンシュトックはティンパニの小森宗太郎やチェロの齋藤秀雄<sup>たず</sup>ら、楽団員の幹部連中に訊ねてみた。君たちはいつも定期公演を分厚い布の上でやっているのかと。いや、違うのだという。普段はじかに板の上に乗っている。だが、今日は待望の新監督のお披露目というので、公会堂を管理運営する東京市が特にプレゼントしてくれたので、舞台上に釘打ちで貼り付けたという。ローゼンシュトックは、齋藤に指揮を代わってもらい、客席の1階、2階を歩き回って聴いてみた。やはりばやけすぎ。何としても絨毯<sup>じゅうたん</sup>を剥がしてもらいたい。これでは今夜の演奏会は大失敗だ。この状態では自分の演奏意図が聴衆

にまったく伝わるまい。

楽団は困ってしまった。ここで絨毯を剥がしては、新交響楽団に対してきわめて好意的な東京市との関係が壊れるのではないか。我慢してもらえないか。むろん、そこで妥協しないのがローゼンシュトックである。自らの信じる芸術を通すために芸術家は存在するのだ。絨毯を除けずしてコンサートはできぬ。強く主張し続けて長い休憩時間に入った。新交響楽団はどうしたか。剥がした。ローゼンシュトックは満足した。

この件はハプニングである。東京市が善意のつもりでその日だけにもたらした音響条件であって、ローゼンシュトックによってただちに修正された。でも、それで本来の響きに戻った日比谷公会堂のホールを、指揮者が気に入ったのかといえそうではなかった。絨毯を外して音が臍おぼろでなくなったから、クリアに客席に届くようになるはずと思ったのは、日比谷公会堂を知らなかったローゼンシュトックの大間違いだった。今度は響きがスカスカになった。大きな天井の空間がただの剃むき出し。がらんどうなのである。オーケストラをいくら鳴らしても客席にあまり届かぬではないか。上方の大空間に音が抜けていってしまう。なぜ、こんな環境で新交響楽団は長く定期公演を重ね、誰も文句を言わなかったのだろう？ 前任の指揮者はよほどどうかしていたのか。

ローゼンシュトックは天井から天蓋てんがいを釣り下げるように提案した。反響板である。新交響楽団は「命令」に従った。自前で作って出演のたびに用いてみた。音響は向上したようである。ローゼンシュトックは喜んだ。彼の目指すカミソリのようなサウンドが、よりビュンビュンと客席に刺さるようになった。新交響楽団所有の日比谷公会堂向け反響板を使うと、客席への音の届き方が従来とまるで違うらしい。評判は評判を呼び、新交響楽団以外のコンサートでも、

利用者はオーケストラから有料で借りるかたちで、反響板が吊るされることが多くなった。新交響楽団はそれなりに儲もうかったらしい。

## ローゼンシュトック対モグリフスキー

ローゼンシュトックは、ホールの音響にも気を配りながら、意欲的な定期公演を重ねていった。古典派やロマン派のレパートリーを新即物的にびびしと振るのはもちろんのこと、やはりレパートリーに彼の演奏スタイルにいかにもふさわしいモダンな楽曲を次々と投入した。1937（昭和12）年2月の第176回定期ではラートハウスの《組曲「ウリエル・アコスタ」》を。4月の第178回定期では、リムスキー・コルサコフの娘婿むすめむこにしてショスタコーヴィチの師であるシュテインベルクの《交響曲第3番》とストラヴィンスキーの《ペトルーシカ》を。6月の第181回定期にはベルクの《歌劇「ヴォツェック」からの断章》。音楽評論家、野村光一は、戦後にこの頃を振り返って座談の場でこう語っている。「（ローゼンシュトックの来る前の新交響楽団は）ほとんど無理をしなかったんだよ。ところが彼が来て、音楽的に高いものを無理矢理押しつけようとして統制したんだね。それで新響の演奏はのびのびしたものにならない。これはローゼンシュトックの性格にもよるものと思うけど、ずいぶん無理をした」。野村は、無理をさせても成果が伴ってくるほどの技量がまだない新交響楽団を、指揮者がしごくばかりで演奏を窮屈きゆうくつにしていたと、かなり批判的である。この発言を評論家の中島健蔵が受ける。「《ペトルーシカ》を初めてやった時なんか、まさに無理の絶頂だったな。あのリズムの変化にオーケストラはどうしてもついていけなかったからね」（『日本洋楽外史』、ラジオ技術社、1978年）。

とにかく急進的なローゼンシュトックは、オー

ケストラとはもちろん演奏の現場でひどく軋み合ったのだけれど、日本ですでに地歩を得ていた西洋人演奏家や、多くの日本の知識人層を含めた、保守的ともいえる聴衆とも、軋轢を起さぬわけにはゆかなかった。そんなドラマの第1幕は、すでに触れたピアニスト、レオニード・クロイツァーとの、新交響楽団でのポストも絡んでの対立だったけれど、すぐに第2幕も始まった。ヴァイオリニスト、アレクサンドル・モギレフスキーとのいさかいである。

モギレフスキーは1885年に黒海沿岸の港湾都市、オデーサに生まれ、サンクトペテルブルクでレオポルト・アウアーに師事したユダヤ系ロシア人である。ロシア革命後もしばらくソ連で活躍していたが、やがて日本へ。東京高等音楽学院（現国立音楽大学）や帝国音楽学校で教え、1937（昭和12）年からは東京音楽学校（現東京藝術大学音楽学部）の教授陣にも加わって、この国に住むヴァイオリン演奏家兼教育者の頂点に立っていたといつてよい。門弟は鈴木鎮一から諏訪根自子まで数知れない。クロイツァーとも仲良しだったし、戦後何十年か経ってもローゼンシュトックに厳しい評価を下していた評論家の野村光一とも深いかかわりがあった。新交響楽団とも、ソリストとして、あるいは指揮者として、幾度も共演していた。

そのモギレフスキーが1937年3月24日の第177回定期にソリストとして出演することになった。曲目はベートーヴェンの《ヴァイオリン協奏曲》。前は《序曲「コリオラン」》で、後ろは《交響曲第8番》である。全部ベートーヴェン。モギレフスキーとローゼンシュトックの初共演に好楽家の期待は高まった。ところが両者は練習会場で激突する。ついにソリストの交代にまで発展した。当日は代役として、ローゼンシュトックの古くからの友人であるウィリー・フライが出演。モギレフスキーは、指揮者との芸術上の見解の相違によって、自分の側から出演を拒否した

と、コンサート前日までにマスコミに申し開きをし、演奏会の当日朝から新聞などで報道された。ローゼンシュトックはこれに怒った。降板は事実だ。が、経緯の説明が違うのではないか。モギレフスキーよ、恰好を付けるな！3月24日の演奏会の終了後、ローゼンシュトックは声明書を発表した。

声明はこうである。もともと今回のソリストは、新交響楽団を長く支えてきたヴァイオリニスト兼指揮者ニコライ・シフェルブラットに頼んでいた。しかし彼は1936（昭和11）年10月に亡くなった。そこでオーケストラは代役としてモギレフスキーを推薦してきた。自分は音楽家としてのモギレフスキーをまったく知らなかった。新交響楽団が良い演奏家だというから、とりあえず信用して受諾したのだ。ところが本番2日前に初めて合わせてみて驚いた。楽曲の「解釈上根本的差違」が存在することが明らかになった。それは歩み寄り可能なものではない。モギレフスキーの演奏が主観的、恣意的、前時代的すぎて論外なのである。「私は練習終了後モ氏（モギレフスキー氏の略）に対し、同氏のテンポの誤りを注意」した。そしてローゼンシュトックは、アウアー門下の大家を自認して東京に今も多くの門弟を擁するヴァイオリニストに対して、同曲の演奏については、たとえばアドルフ・ブッシュやイエフディ・メニューインの従っているテンポでなければ、自分の指揮とは合致しないと告げた。大演奏家が、はい、そうですかと頷くはずがない。よその演奏家の名前を持ち出されては気を悪くするのは当然だ。モギレフスキーは指揮者の提案を拒み、ただちに反論に移った。「この曲には演奏の標準が無く、名人は自己の自由に演奏し得る」。この発言を聴いてローゼンシュトックは「氏がロシアの提琴家であることを認知したわけであります」。

痛烈である。「ロシアの提琴家」とはここでは、時代遅れで、身勝手な、譜読みがでたら



第177回定期に先駆けて、シフェルブラットの追悼演奏会がローゼンシュトックの指揮で行われた(1937年3月4日、日比谷公会堂)

めで、主情的で、不正確にしか弾けないヴァイオリニストという意味であろう。そこには1920年代から30年代にかけて激化していた演奏美学の対立があるのだ。ロマン的か、新古典的か。主観的か、客観的か。新古典派で客観主義派の闘将、ローゼンシュトックは、モギレフスキーを断固拒否した。「練習終了後、私は直ちに新響委員を招き、モ氏の解釈によってはこの曲を定期公演で上演することは不可能であつて、私もまた指揮棒を執ることは不可能である旨を説明しました」。モギレフスキーが拒絶したのではなく、ローゼンシュトックが拒絶したのだ。それなのに「モ氏は私と芸術上の意見の相違によって演奏会出演を拒絶した旨を新聞紙上に公表された」。芸術家としての精進が足りていないゆえに降ろされたのが真実ではないか。世間体を取りつくりおと、ごまかしに満ちた発言で、世間を欺くのは許しがたい。これ

ぞ壮年期のローゼンシュトックの行動様式である。なあなあではけっして済ませられない。そんな彼の社会生活における態度は演奏美学と完全に結びついていた。

「ローゼンシュトックの性格にもよるものと思うけど、ずいぶん無理をした」。先に引いた、どちらかというともギレフスキーに同情するグループに入る野村の発言をあらためて思い出そう。こういう「無理」の積み重ねこそが芸術を飛躍させる。でも、そこには必ず血が流れ、痛みが伴うのである。

#### 文 | 片山杜秀(かたやまもりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。水戸芸術館館長。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大楽必易』ほか著書多数。

# 2025年1月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

トウガン・ソヒエフが、例年のように1月の定期公演に出演する。変化に富んだ3種類のプログラムによって、“未来の巨匠”の進行形を確かめることができるだろう。

「今だからこそ」という声に背中を押され  
——ソヒエフの《レニングラード交響曲》

[Aプログラム]は、ショスタコーヴィチ《交響曲第7番「レニングラード」》。

祖国ロシアのウクライナ侵攻に胸を痛めたソヒエフは2022年、長く務めたポリショイ劇場とトゥールーズ・キャピトル劇場管弦楽団の音楽監督を辞任した。スケジュールが白紙になる中、悩み抜いたソヒエフは、その年のザルツブルク復活祭音楽祭への出演を決断する。ドレスデン国立管弦楽団とともに、ショスタコーヴィチ《第7番》を演奏するという企画だった。「今だからこそ、この曲を取り上げるべきだ」という声に、背中を押されたという。

作品が書かれたのは、ドイツとソ連の戦争が始まった1941年。当時も今も、ナチズムへの抵抗の音楽と解釈されるが、作曲家自身は「ナチズム」ではなく、「ファシズム」への戦いに捧げると言明している。つまり本来は、あらゆる全体主義的な抑圧へのアンチテーゼとしてとらえるべき音楽なのだろう。そのように理

解することで、今、この曲を演奏する意味が明らかになるのではなかろうか。ソヒエフのメッセージに耳を傾けて頂きたい。

昨年のウィーン・フィル来日公演に続き、  
N響で披露するブラームス《第1番》

[Cプログラム]の《組曲「プルチネッラ」》は、バレエ音楽を原曲とする。18世紀あるいはそれ以前のイタリアの作品を換骨奪胎したストラヴィンスキーの斬新な手法はしばしば、バレエの初演で舞台・衣装を担当したピカソのキュービズムにも準えられるが、依頼主のディアギレフは「モナ・リザに口ひげをつけろと頼んだ覚えはない」と愚痴をこぼしたとも伝えられる。だがストラヴィンスキーは、原曲に新たな生命を吹き込むことが、過去の作品に敬意を示す唯一の方法と信じていた。

後半はブラームス《交響曲第1番》。2023年秋、ソヒエフは急な代役として、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の来日公演でもこの曲を指揮している。聴き慣れたはずの名曲なのに、一音一音に込められた情報量の多さに驚いた。一例を挙げれば、終楽章最後の全音符。ソヒエフは、舞台下手のティンパニを見据えてトリルを強調したあと、上手のコントラバスに向き直って低音を膨らませ、ふくやかな

余韻を残して、ハ長調の和音を締めくくった。まるで、書道の達人の入魂の一筆を見るようだった。今回も決して通り一遍にならない演奏を聴かせてくれるだろう。

2曲の組み合わせは一見奇妙だが、バロック時代の音楽を現代的な感覚で蘇<sup>よみがえ</sup>らせることと、おなじみの名曲に別の角度から光を当てることは、物事への新しい見方を提示してくれるという意味で、共通項を持つように思われる。

民族色豊かな東欧・ロシアの名作を、ソヒエフの自在なタクトで楽しむ

[Bプログラム]のメインはドヴォルザーク《交響曲第8番》。ソヒエフは以前、《新世界交響曲》のリハーサルで、「Take Time」という指示を繰り返していた。しっかり呼吸する時間を取ることで、個々のフレーズに命を宿らせるのだ。この曲でも、ドヴォルザーク特有のノスタ

ルジックで哀愁に満ちたメロディを、表情豊かになつぷりと歌わせるだろう。

バルトーク《ヴァイオリン協奏曲第2番》は対照的に冷徹な美しさをたたえた音楽である。最先端の十二音技法とメロディの魅力を共存させた第1楽章、特殊なボウイングのテクニックを変奏曲形式に取り入れた第2楽章、大戦前の不穏な雰囲気をもった第3楽章。第1コンサートマスターの郷古廉が、硬質な音色と強<sup>きようじん</sup>靱なテクニックで、20世紀を代表する名曲に迫る。

冒頭はムソルグスキーの《歌劇「ソロチンツィの市」》から。ゴバックとは、ウクライナのコサックの踊りのこと。全体として、ヨーロッパ東域の豊かな民族色が楽しめるプログラムとなっている。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

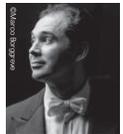
**A** 1/18 土  
6:00pm  
1/19 日  
2:00pm

NHKホール

ショスタコーヴィチ没後50年

ショスタコーヴィチ／交響曲 第7番 ハ長調 作品60「レニングラード」

指揮：トゥガン・ソヒエフ



**B** 1/30 木  
7:00pm  
1/31 金  
7:00pm

サントリーホール

ムソルグスキー(リヤードフ編)／

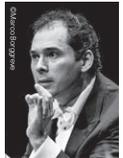
歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」[ゴバック]

バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク／交響曲 第8番 ト長調 作品88

指揮：トゥガン・ソヒエフ

ヴァイオリン：郷古 廉(N響第1コンサートマスター)



**C** 1/24 金  
7:00pm  
1/25 土  
2:00pm

NHKホール

ストラヴィンスキー／組曲「プルチネッラ」

ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮：トゥガン・ソヒエフ



# チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行) / 2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行) / 2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行) / 2025年2月19日[水](一般)

## 料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム [Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

( )内は1公演あたりの単価  
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。  
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行) / 2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行) / 2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行) / 2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

## ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大

定期会員券の対象席種を拡大

2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました  
[S席～D席の全席種]に拡大しました

お申し込み

WEBチケットN響  
<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm / 定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」から登録ください。

# 2024-25定期公演プログラム

2024 12	A	第2025回	ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる シェーンベルク生誕150年 ワーグナー／楽劇「ドリスタンとイゾルデ」—「前奏曲と愛の死」 R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、「なつかしいおもかげ」作品48-1*、 「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、「あすの朝」作品27-4* シェーンベルク／交響詩「レハエスとメリザント」作品5	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥6,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		11/30(土) 6:00pm			
		12/1(日) 2:00pm			
		※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。			
		NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:クリスティアーネ・カルク*		
2024 12	B	第2026回	ルイーゼが屈指の名曲で振り起こす スラヴ音楽の魅力 スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30 ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		12/5(木) 7:00pm			
		12/6(金) 7:00pm			
		サントリーホール	指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:ネルソン・ゲルナー		
2024 12	C	第2027回	《一千人の交響曲》に続く ルイーゼ&N響の「ファウスト」シリーズ リスト／交響詩「タッソー」 リスト／ファウスト交響曲* 指揮:ファビオ・ルイーゼ テノール:クリストファー・ヴェントリス** 男声合唱:東京オペラシンガーズ* ※当初発表の出演者から変更となりました。	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
		12/13(金) 7:00pm			
		12/14(土) 2:00pm			
		NHKホール			
2025 01	A	第2028回	ソヒエフが《レニングラード交響曲》に万感の思いを込める ショスタコーヴィチ没後50年 ショスタコーヴィチ／交響曲 第7番 八長調 作品60「レニングラード」	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		1/18(土) 6:00pm			
		1/19(日) 2:00pm			
		NHKホール	指揮:トゥガン・ソヒエフ		
2025 01	B	第2030回	音の魔術師のタクトが紡ぎだす 東欧の情緒に身をゆだねる ムソルグスキー(リャドフ編)／ 歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」「ゴバック」 バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番 ドヴォルザーク／交響曲 第8番 卜長調 作品88	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		1/30(木) 7:00pm			
		1/31(金) 7:00pm			
		サントリーホール	指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響第1コンサートマスター)		
2025 01	C	第2029回	世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神 ストラヴィンスキー／組曲「フルチネラ」 ブラームス／交響曲 第1番 八短調 作品68	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		1/24(金) 7:00pm			
		1/25(土) 2:00pm			
		NHKホール	指揮:トゥガン・ソヒエフ		
2025 02	A	第2031回	チェコが生んだ新時代の巨匠ボベルカがN響デビュー ツェムリンスキー／シンフォニエッタ 作品23 R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11 ドヴォルザーク／交響詩「のぼと」作品110 ヤナーチェク／シンフォニエッタ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		2/8(土) 6:00pm			
		2/9(日) 2:00pm			
		NHKホール	指揮:ベトル・ボベルカ ホルン:ラデク・パボラーク		
2025 02	B	第2032回	世界の音楽界が熱視線を注ぐ 若き巨匠によるドイツ・プログラム モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、 アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、 交響曲 第25番 卜短調 K. 183、レチタティーヴォとアリア「私のうるわし い恋人よ、さようなら—とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528* シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		2/13(木) 7:00pm			
		2/14(金) 7:00pm			
		サントリーホール	指揮:ベトル・ボベルカ メゾ・ソプラノ:エマ・ニコロフスカ*		
2025 02	C	第2033回	下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界 スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲 サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61 スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲 オフエンバック(ロザンタール編)／バレエ音楽「パリの喜び」(抜粋)	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		2/21(金) 7:00pm			
		2/22(土) 2:00pm			
		NHKホール	指揮:下野竜也 ヴァイオリン:三浦文彰		

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2025 04	<b>A</b> 第2034回 4/12(土) 6:00pm 4/13(日) 2:00pm NHKホール	ベルリオズとプロコフィエフ 通底するテーマは「さすらい人」 ベルリオズ／交響曲「イタリアのハロルド」* プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年) 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ヴァイオリン:アントワヌ・タメスティ*		一般 ユースチケット S ¥11,000 S ¥5,500 A ¥9,500 A ¥4,500 B ¥7,600 B ¥3,500 C ¥6,000 C ¥2,800 D ¥5,000 D ¥1,800 E ¥3,000 E ¥1,400	
	<b>B</b> 第2035回 4/17(木) 7:00pm 4/18(金) 7:00pm サントリーホール	《春の祭典》に続きバーヴォ&N響が贈る ストラヴィンスキー三大大バレエ第2弾 ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版) プリテン／ピアノ協奏曲 作品13 プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー(プリテン)、松田華音(ストラヴィンスキー)		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
	<b>C</b>	4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます			
2025 05	<b>A</b> 第2036回 4/26(土) 6:00pm 4/27(日) 2:00pm *5月定期公演Aプログラムは 4月に開催いたします。 NHKホール	ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露 N響ヨーロッパ公演2025 プログラム マーラー／交響曲 第3番 二短調 指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ 女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団		一般 ユースチケット S ¥15,000 S ¥7,000 A ¥12,500 A ¥6,000 B ¥10,000 B ¥5,000 C ¥8,000 C ¥4,000 D ¥6,500 D ¥3,000 E ¥4,500 E ¥2,000	
	<b>B</b> 第2037回 5/1(木) 7:00pm 5/2(金) 7:00pm サントリーホール	軋みあう“生と死”を超克し その彼方の光へ N響ヨーロッパ公演2025 プログラム ベルク／ヴァイオリン協奏曲 マーラー／交響曲 第4番 ト長調* 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
	<b>C</b> 第2038回 5/30(金) 7:00pm 5/31(土) 2:00pm NHKホール	オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス! N響定期初登場、藤田真央にも注目! シューベルト／「ロザムンデ」序曲 ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25* R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲 R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲 指揮:ギエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真央*		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
2025 06	<b>A</b> 第2039回 6/7(土) 6:00pm 6/8(日) 2:00pm NHKホール	巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲 リムスキー・コルザコフ／歌劇「5月の夜」序曲 ラフマニノフ／バガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」 指揮:ウラディミール・フェドセエフ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000	
	<b>B</b> 第2040回 6/12(木) 7:00pm 6/13(金) 7:00pm サントリーホール	チェリビダッケの直弟子 メナのブルクナー〈第6番〉 イベール／フルート協奏曲 ブルクナー／交響曲 第6番 イ長調 指揮:ファンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュツ		一般 ユースチケット S ¥12,000 S ¥6,000 A ¥10,000 A ¥5,000 B ¥8,000 B ¥4,000 C ¥6,500 C ¥3,250 D ¥5,500 D ¥2,750	
	<b>C</b> 第2041回 6/20(金) 7:00pm 6/21(土) 2:00pm NHKホール	2000年生まれの新超新星 ベルトコスキのマーラー「巨人」 コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」 指揮:タルモ・ベルトコスキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ		一般 ユースチケット S ¥10,000 S ¥5,000 A ¥8,500 A ¥4,000 B ¥6,500 B ¥3,100 C ¥5,400 C ¥2,550 D ¥4,300 D ¥1,500 E ¥2,200 E ¥1,000 (料金はすべて税込)	

\*今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

# 速報 2025-26定期公演プログラム (2025年9月~2026年6月)

2025 09	A	第2042回	シーズン開幕に満を持して臨む ルーゼのライフワーク ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 フランツ・シュミット／交響曲 第4番 ハ長調
		9/13(土) 6:00pm 9/14(日) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルーゼージ ピアノ:イェフィム・ブロンフマン	
2025 09	B	第2043回	ルーゼージが浮き彫りにする《イタリア》に刻まれた「光と陰」 武満 徹／3つの映画音楽 ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 メンデルスゾーン／交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」
		9/18(木) 7:00pm 9/19(金) 7:00pm	
	サントリーホール	指揮:ファビオ・ルーゼージ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス	
2025 09	C	第2044回	欧米メジャーオーケを席卷する 情熱の指揮者が、響初登場 マーラー／子どもの不思議な角笛―「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」* 「浮世の生活」*「天上の生活」*「原光」* シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22
		9/26(金) 7:00pm 9/27(土) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:ライアン・バンクロフト バリトン:トマス・ハンブソン*	
2025 10	A	第2046回	マエストロが祈りを込めて贈る 2つの合唱付き交響曲 ストラヴィンスキー／詩篇交響曲 メンデルスゾーン／交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」*
		10/18(土) 6:00pm 10/19(日) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー* メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト* テノール:ティルマン・リヒディ* 合唱:スウェーデン放送合唱団	
2025 10	B	第2045回	ブロムシュテットが惹き込む 気品に満ちた北欧の傑作たち グリーグ／組曲「ホルベアの時代から」作品40 ニルセン／フルート協奏曲 シベリウス／交響曲 第5番 変ホ長調 作品8
		10/9(木) 7:00pm 10/10(金) 7:00pm	
	サントリーホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット フルート:セバスティアン・ジャコー	
2025 10	C	第2047回	巨匠の飽くなき探究心が拓く 新たなブラームスの地平 ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ブラームス／交響曲 第3番 へ長調 作品90
		10/24(金) 7:00pm 10/25(土) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンズネス	
2025 11	A	第2048回	デュトワ、十八番のメシアンとホルストを携え 8年振りに定期公演に登場 メシアン／神の現存の3つの小典礼* ホルスト／組曲「惑星」作品32
		11/8(土) 6:00pm 11/9(日) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:シャルル・デュトワ ピアノ:小菅 優* オンド・マルトノ:大矢素子* 女声合唱:東京オペラシンガーズ	
2025 11	B	第2050回	大きく羽ばたく俊英が 得意のドイツ・プログラムで再登場 シューマン／「マンフレッド」序曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40
		11/20(木) 7:00pm 11/21(金) 7:00pm	
	サントリーホール	指揮:ラファエル・パヤーレ ピアノ:エマニュエル・アックス	
2025 11	C	第2049回	ラヴェル生誕150年 当世随一の解釈者のタクトで ラヴェルを味わい尽くす ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ ラヴェル／組曲「クーブランの墓」 ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)*
		11/14(金) 7:00pm 11/15(土) 2:00pm	
	NHKホール	指揮:シャルル・デュトワ 合唱:二期会合唱団*	

# 速報 2025-26定期公演プログラム(2025年9月~2026年6月)

2025  
12

A

第2051回

11/29(土) 6:00pm

11/30(日) 2:00pm

※12月定期公演Aプログラムは  
11月に開催いたします。  
NHKホール

ショスタコーヴィチ、そして(人魚姫)を貫く アイデンティティ崩壊と蘇生の物語  
ショスタコーヴィチ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77  
ツェムリンスキー/交響詩「人魚姫」

指揮:ファビオ・ルイーダ ヴァイオリン:レオニダス・カヴァコス

B

第2052回

12/4(木) 7:00pm

12/5(金) 7:00pm

サントリーホール

オーケストラの絢爛な響きを サントリーホールの大オルガンと共に体感する  
藤倉 大/NHK交響楽団 委嘱作品 [タイトル未定/世界初演]  
フランク/交響的変奏曲\*  
サン・サーンス/交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」

指揮:ファビオ・ルイーダ ピアノ:トム・ポロ\*

C

第2053回

12/12(金) 7:00pm

12/13(土) 2:00pm

NHKホール

ニルゼン最高峰の交響曲を ルイーダ入魂の指揮で味わう  
ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 または第2番 ヘ短調 作品21  
ニルゼン/交響曲 第4番 作品29「不滅」

指揮:ファビオ・ルイーダ  
ピアノ:第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者

2026  
01

A

第2054回

1/17(土) 6:00pm

1/18(日) 2:00pm

NHKホール

ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露  
マーラー/交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

指揮:トウガン・ソヒエフ

B

第2056回

1/29(木) 7:00pm

1/30(金) 7:00pm

サントリーホール

ソヒエフ、お家芸のプロコフィエフ(第5番)を13年振りにN響で指揮  
ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)/歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」  
ショスタコーヴィチ/ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102  
プロコフィエフ/交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

指揮:トウガン・ソヒエフ ピアノ:松田華音

C

第2055回

1/23(金) 7:00pm

1/24(土) 2:00pm

NHKホール

夢幻と高揚に誘う フランス・ロシアのナラティブな作品たち  
ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲  
デュティユー/チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」  
リムスキー・コルサコフ/組曲「サルタン皇帝の物語」作品57  
ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

指揮:トウガン・ソヒエフ チェロ:上野通明

2026  
02

A

第2057回

2/7(土) 6:00pm

2/8(日) 2:00pm

NHKホール

名門歌劇場で存在感を放つ ジョルダンのワーグナー  
シューマン/交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」  
ワーグナー/楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」  
「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」\*

指揮:フィリップ・ジョルダン ソプラノ:タマラ・ウィルソン\*

B

第2059回

2/19(木) 7:00pm

2/20(金) 7:00pm

サントリーホール

待望の再登場! フルシャのドヴォルザーク&ブラームス  
ドヴォルザーク/ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53  
ブラームス/セレナード 第1番 二長調 作品11

指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチェク

C

第2058回

2/13(金) 7:00pm

2/14(土) 2:00pm

NHKホール

創立100年に問う N響設立者・近衛の《展覧会の絵》  
コダーイ/ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲  
ファンメル/トランペット協奏曲 ホ長調  
ムソルグスキー(近衛秀麿編)/組曲「展覧会の絵」

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ トランペット:菊本和昭(N響首席トランペット奏者)

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
📺 開場5:00pm 開演6:00pm 📺 開場1:00pm 開演2:00pm		📺 開場6:20pm 開演7:00pm 📺 開場6:20pm 開演7:00pm		📺 開場6:00pm 開演7:00pm 📺 開場1:00pm 開演2:00pm	
2026 04	A	第2060回 4/11 土 6:00pm 4/12 日 2:00pm	ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 二短調 指揮:ファビオ・ルイーゼ チェロ:ヤン・フォークラー		
	B	第2061回 4/16 木 7:00pm 4/17 金 7:00pm	モーツァルトとマーラーに通底する 絶対美の深淵に触れる モーツァルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調 指揮:ファビオ・ルイーゼ クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)		
	C	第2062回 4/24 金 7:00pm 4/25 土 2:00pm	下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅 外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26 伊福部 昭／交響譚詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a 指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平		
2026 05	A	第2064回 5/23 土 6:00pm 5/24 日 2:00pm	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブラームス・プログラム ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブラームス(シェンベルク編)/ピアノ四重奏曲 第1番ト短調 作品25 指揮:ミハエル・ザンデルリネク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ		
	B	第2063回 5/14 木 7:00pm 5/15 金 7:00pm	「ヤマカズミ」ととどる元祖ヤマカズミの世界 そして1930年代の日独作品の諸相 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田磯太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スーヤン*		
	C	第2065回 5/29 金 7:00pm 5/30 土 2:00pm	旧ソ連・ロシア出身の気鋭が明らかにする 謎多きショスタコーヴィチ(第4番)の真価 ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品【タイトル未定/日本初演】 ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 八短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ		
2026 06	A	第2067回 6/13 土 6:00pm 6/14 日 2:00pm	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーデン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ		
	B	第2066回 6/4 木 7:00pm 6/5 金 7:00pm	ドゥナーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス音楽名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:ステファヌ・ドゥナーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ		
	C	第2068回 6/19 金 7:00pm 6/20 土 2:00pm	尾高のリリシズムと相性抜群の北国の名作たち HIMARI、N響定期に初登場 シベリウス／アンダンテ・フェスティエーヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI		

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。  
※料金、発売日等チケットの詳細は2025年3月末に発表予定です。

## 特別公演

12/18 <b>水</b> 7:00pm	12/22 <b>日</b> 2:00pm	ベートーヴェン「第9」演奏会
12/19 <b>木</b> 7:00pm	12/24 <b>火</b> 7:00pm	
12/21 <b>土</b> 2:00pm		

### NHK ホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ

ソプラノ:ヘンリエッテ・ボンデ・ハンセン メゾ・ソプラノ:藤村実穂子

テノール:ステュアート・スケルトン バス・バリトン:トマス・トマソン 合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円  
ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 9月25日(水)10:00am  
一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

※12月24日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。

主催:NHK・NHK交響楽団/NHK・NHK厚生文化事業団(24日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社/はごろもフーズ株式会社/株式会社明電舎

お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502/NHK厚生文化事業団 TEL (03)3476-5955(24日公演のみ)

## 12/23 **月** 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

### サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ オルガン:中田恵子\* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ/トッカータとフーガ へ長調 BWV540\*

ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円  
ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 9月25日(水)10:00am  
一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険 お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

## 3/7(金) 7:00pm | N響大河ドラマ&名曲コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:三浦文彰\* 特別ゲスト:高橋英樹 司会:田添菜穂子

[第1部 大河ドラマ編]

青天を衝け(2021/佐藤直紀)  
軍師官兵衛(2014/菅野祐悟)  
麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)  
翔ぶが如く(1990/一柳 慧)  
篤姫(2008/吉俣 良)  
元禄太平記(1975/湯浅譲二)  
草燃える(1979/湯浅譲二)  
徳川慶喜(1998/湯浅譲二)  
真田丸(2016/服部隆之)\*  
べらぼう〜髷重栄華乃夢噺〜(2025/ジョン・グラム)

[第2部 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

バッハ/ヴァイオリン協奏曲 第一番 イ短調 BWV1041\*  
ヘンデル(ハーティ編)/組曲「水上の音楽」—第1、3、4、6曲  
ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」  
グロフェ/組曲「ミシシッピ」—「マルディ・グラ」

料金(税込):一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席7,000円 C席5,000円  
ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

※B席、C席はステージの一部が見えづらい席となります。

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 1月9日(木)10:00am  
一般 | 1月14日(火)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 お問い合わせ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

お申し込み

WEBチケットN響 | <https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm  
定休日:土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

## 各地の公演

---

### 12/8回 3:00pm | NHK交響楽団浦安特別公演

---

#### 浦安市文化会館 大ホール

---

指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:ネルソン・ゲルナー

スメタナ / 歌劇「売られた花嫁」序曲

ラフマニノフ / ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

ムソルグスキー(ラヴェル編) / 組曲「展覧会の絵」

主催:(公財)うらやす財団 お問い合わせ:浦安市文化会館 TEL(047)353-1121

---

### 1/5回 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 甲府公演

---

#### YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

---

指揮:梅田俊明 ピアノ:亀井聖矢

ブラームス / ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

ベートーヴェン / 交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

主催:NHK甲府放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

### 1/12回 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 西宮公演

---

#### 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

---

指揮:サッシャ・ゲッツェル ソプラノ:ヘラ・イエサン・バク\*

ヨハン・シュトラウスⅡ世 / 喜歌劇「こもり」—序曲、「侯爵様、あなたのようなお方は」\*、ワルツ「南国のぼら」作品388、  
ベルシャ行進曲 作品289、喜歌劇「こもり」—「田舎娘を演じる時は」\*、狂乱のボルカ 作品260

コルンゴルト / シュトラウシアーナ

ヨーゼフ・シュトラウス / ワルツ「うわごと」作品212、ボルカ・マズルカ「とんぼ」作品204

ヨハン・シュトラウスⅡ世 / 喜歌劇「ジプシー男爵」序曲、ワルツ「ウィーンかたぎ」作品354

主催:NHK神戸放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5542-8600

---

### 1/13月祝 2:00pm | NHK交響楽団 大津公演

---

#### 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

---

出演者・曲目は1月12日と同じ

主催:NHK大津放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5542-8600

---

## 2/2回 3:00pm | 第12回 NHK交響楽団いわき定期演奏会

---

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

---

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉

ムソルグスキー(リャドフ編) / 歌劇「ソロチンツィの市」-「序曲」「ゴバック」

バルトーク / ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク / 交響曲 第8番 ト長調 作品88

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問い合わせ:アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

---

---

## 2/26日 7:00pm | NHK交響楽団 in Ichikawa

---

市川市文化会館

---

指揮:マルクス・ボシュナー ピアノ:小林愛実

ベートーヴェン / 序曲「コリオラン」作品62

モーツァルト / ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271

ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:(公財)市川市文化振興財団 お問い合わせ:(公財)市川市文化振興財団 TEL(047)379-5111

---

---

## 2/27日 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

---

和歌山県民文化会館大ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:和歌山県/(一財)和歌山県文化振興財団 お問い合わせ:和歌山県民文化会館 TEL(073)436-1331

---

---

## 3/1日 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高知公演

---

高知県立県民文化ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高知放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

---

## 3/2日 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 高松公演

---

レクザムホール(香川県県民ホール)

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:NHK高松放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

---

---

## 3/3日 7:00pm | ユメニティのおがた開館25周年記念 NHK交響楽団 直方公演

---

ユメニティのおがた 大ホール

---

出演者・曲目は2月26日と同じ

主催:(公財)直方文化青少年協会 お問い合わせ:ユメニティのおがた TEL(0949)25-1007

---

## 3/8日 3:00pm | NHK交響楽団 上田特別公演「大河ドラマ&名曲コンサート」

サントミュージゼ 大ホール

指揮:広上淳一 ヴァイオリン:三浦文彰\* 司会:田添菜穂子

青天を衝け(2021/佐藤直紀)

軍師官兵衛(2014/菅野祐悟)

麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)

翔ぶが如く(1990/一柳 慧)

篤姫(2008/吉俣 良)

元禄太平記(1975/湯浅譲二)

草燃える(1979/湯浅譲二)

徳川慶喜(1998/湯浅譲二)

真田丸(2016/服部隆之)\*

べらぼう〜薦重栄華乃夢断〜(2025/ジョン・グラム)

パッサハ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 BWV1041\*

ヘンデル(ハーティ編)/組曲「水上の音楽」—第1、3、4、6曲

ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」

グロフェ/組曲「ミシシッピ」—「マルディ・グラ」

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター)/上田市教育委員会 お問い合わせ:サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター TEL (0268)27-2000

3/11日 7:00pm

2025都民芸術フェスティバル参加公演

オーケストラ・シリーズNo.56 NHK交響楽団

すみだトリフォニーホール

指揮:大友直人 ピアノ:金子三勇士

スメタナ/交響詩「わが祖国」—「モルダウ」

リスト/ピアノ協奏曲 第2番 イ長調

ドヴォルザーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL(03)3539-5131

3/27日 3:00pm

東京・春・音楽祭2025 東京春祭ワグナー・シリーズ vol. 16

3/30日 3:00pm

《パルジファル》(演奏会形式)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ アムフォルタス:クリスティアン・ゲルハーヘル テイトウレル:水島正樹

グルネマンツ:タレク・ナズミ パルジファル:ステュアート・スケルトン クリングゾル:シム・インスン

クンドリ:ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー 第1の聖杯騎士:大槻孝志 第2の聖杯騎士:杉浦隆大

四人の小姓:秋本悠希、金子美香、土崎 譲、谷口耕平

クリングゾルの魔法の乙女たち:相原里美、今野沙知恵、杉山由紀、佐々木麻子、松田万美江、鳥谷尚子

アルトの声:金子美香 合唱:東京オペラシンガーズ

ワグナー/舞台神聖祝典劇「パルジファル」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

4/4 金 7:00pm

東京・春・音楽祭2025 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.12

4/6 日 3:00pm

ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ソプラノ:アドリアナ・ゴンザレス メゾ・ソプラノ:ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー  
テノール:ステュアート・スケルトン バス:タレク・ナズミ 合唱:東京オペラシンガーズ  
ベートーヴェン/ミサ・ソレムニス 二長調 作品123

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

## オーチャード定期

横浜みなとみらいホール・大ホール

1/11 土 3:30pm

出演者・曲目は1月12日と同じ

Bunkamura オーチャードホール

4/20 日 3:30pm

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴナー(プリテン)、松田華音(ストラヴィンスキー)  
ストラヴィンスキー/バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲/1947年版)  
プリテン/ピアノ協奏曲 作品13  
プロコフィエフ/交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

# 海外公演

ヨーロッパ公演2025 | 指揮: ファビオ・ルイーゼ (NHK交響楽団 首席指揮者)

プログラムA	マーラー／交響曲 第3番 二短調	メゾ・ソプラノ: オレシア・ベトロヴァ 女声合唱: オランダ放送合唱団 児童合唱: オランダ児童合唱団
プログラムB	マーラー／歌曲集「子どもの不思議な角笛」から* マーラー／交響曲 第4番 長調**	バリトン: マティアス・ゲルネ* ソプラノ: イン・ファン**
プログラムC	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 マーラー／交響曲 第4番 長調*	ピアノ: ルドルフ・ブフピンダー ソプラノ: イン・ファン*
プログラムD	武満 徹／3つの映画音楽 ベルク／ヴァイオリン協奏曲 ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98	ヴァイオリン: 諏訪内晶子
プログラムE	ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 長調 Hob. VIIb-1 マーラー／交響曲 第4番 長調*	チェロ: ヤン・フォグラ ソプラノ: イン・ファン*

2025 5/9(金) 8:00pm	アントワープ(ベルギー)	エリーザベト王妃ホール[プログラムC]
5/11(日) 8:15pm	アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムA]
5/12(月) 8:15pm	アムステルダム(オランダ) 「マーラー・フェスティバル2025」参加公演	コンセルトヘボウ 大ホール[プログラムB]
5/14(水) 7:30pm	ウィーン(オーストリア)	ウィーン・コンツェルトハウス 大ホール[プログラムC]
5/15(木) 8:00pm	ブラハ(チェコ) 「ブラハの春 音楽祭」参加公演	芸術家の家 ドヴォルザーク・ホール[プログラムD]
5/17(土) 7:30pm	ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	聖母教会[プログラムD]
5/18(日) 6:00pm	ドレスデン(ドイツ) 「ドレスデン音楽祭」参加公演	文化宮殿 コンサートホール[プログラムE]
5/20(火) 7:30pm	インスブルック(オーストリア)	コンGRESS・インスブルック チロル・ホール[プログラムD]

## 曲目解説執筆者・歌詞対訳者

岡田暁生(おかだ あけお)

京都大学人文科学研究所教授。専門は19世紀から20世紀初頭の西洋音楽。著書に『クラシック音楽の大疑問』『モーツァルトのオペラ——「愛」の発見』『西洋音楽史——「クラシック」の黄昏』『リヒャルト・シュトラウス』(作曲家・人と作品シリーズ)など、共著書に『すごいジャズには理由がある』『配信芸術論』など。

高橋健一郎(たかはし けんいちろう)

大阪大学大学院人文学研究科教授。専門はロシアの言語と音楽。おもに19世紀末から20世紀初頭の音楽文化を研究対象とする。著書に『ロシア・アヴァンギャルドの宇宙論的音楽論——言語・美術・音楽をつらぬく四次元思想』『アレンスキー——忘れられた天才作曲家』など。

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『リヒャルト・シュトラウス／楽劇 ばらの騎士』『エレクトラ』『サロメ』(オペラ対訳×分析ハンドブック)、『リヒャルト・シュトラウス「自画像」としてのオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

(五十音順、敬称略)

### N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

**Eテレ** 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

**FM** 7:30~9:10pm

N響演奏会

**FM** 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

**Eテレ** 木曜9:00~9:30pm  
月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長   間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長   中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取   加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長   小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長   喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長   澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO   小宮 暁
株式会社ポケモン	代表取締役社長   石原恒和

### 特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長   長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長   井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長   山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長   矢内 廣

### 賛助会員

・ 常陸宮	・ 朝日信用金庫 理事長   伊藤康博	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役   山下智之
・ (株)アートレイ 代表取締役   小森活美	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長   山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長   鈴木幸一
・ 相川直樹	・ アットホーム(株) 代表取締役社長   鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長   吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長   佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長   大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長   片倉正美	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長   吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長   安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役   井口一世	・ CSMK(株) 代表取締役 執行役員 社長   當麻隆昭
・ (株)あ佳音 代表取締役社長   遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長   清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長   平田恭佐
・ AXL.BIT(株) 代表取締役   長谷川章博	・ (一財)ITOH 代表理事   伊東忠俊	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長   手島一宏
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO   勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長   大西安樹	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長   荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長   高須康有		・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長   有吉伸人

- ・(学)NHK学園  
理事長 | 等々力 健
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス  
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版  
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ  
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ  
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション  
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)  
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)  
代表取締役 | 陰山正弘
- ・カンオ計算機(株)  
代表取締役社長CEO兼CHRO  
増田裕一
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(仮)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス  
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグママックス・ホールディングス  
会長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会  
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
上野真吾
- ・住友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)  
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 竹中直文
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)  
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー  
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通

- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役 | 西川八重子
- ・(一助)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺蔵人
- ・中本光子
- ・日興アセットマネジメント(株)  
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表取締役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)  
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本通運(株)  
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本電気(株)  
取締役 代表執行役社長兼CEO  
森田隆之
- ・(一助)日本放送協会共済会  
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニトリホールディングス  
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄

- ・(株)ニフコ  
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ぴあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川宣一
- ・ペプテドリーム(株)  
代表取締役社長CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)  
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕

- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)  
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者  
ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 貞広貴志
- ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
笠井 徹
- ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 田淵浩記
- ・YCC(株)  
社長 | 中山武之

(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしく願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間バンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
2次元コードを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsumotomo Yamagishi
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

\* Yui Yuhara

## Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- \* Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu

## Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- \* Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- \* Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

## Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Takashi Yamane

## Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- \* Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

## Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

## Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- \* Kotaro Fujii
- Eiji Yamamoto

## Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hideki Kuroda
- Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, \* Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2025

NHK Hall

November 30 (Sat) 6:00pm

December 1 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

soprano

Christiane Karg\*

concertmaster

Sunao Goko

The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Birth

**Richard Wagner**

*Tristan und Isolde*

(*Tristan and Isolde*)

—*Prelude and Liebestod* [17']

**Richard Strauss**

*Das Rosenband Op. 36-1*

(*The Rose Chain*)\* [3']

**Richard Strauss**

*Freundliche Vision Op. 48-1*

(*A Welcome Vision*)\* [4']

**Richard Strauss**

*Waldseligkeit Op. 49-1*

(*Bliss in the Woods*)\* [4']

**Richard Strauss**

*Befreit Op. 39-4 (Released)\** [5']

**Richard Strauss**

*Morgen Op. 27-4 (Tomorrow)\** [4']

— intermission (20 minutes) —

**Arnold Schönberg**

*Pelleas und Melisande Op. 5*

(*Pelléas and Mélisande*) [46']

- All performance durations are approximate.

## Fabio Luisi, conductor



© Yusaku Miyazaki (SEPT)

Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001, and in September 2022 he became Chief Conductor of the orchestra. He conducted Verdi's *Requiem* in the concert to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* to commemorate

the orchestra's 2000th subscription concert in December 2023. These two monumental performances have brought him great success. He has presented works of German and Austrian composers such as Beethoven, Brahms, Bruckner and R. Strauss as well as those of Franck and Saint-Saëns, Francophone composers, and with his conducting style full of passion and poetic sentiment, has captured the hearts of many of audience members. In August 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then will also lead a European tour in May 2025, which has been scheduled in conjunction with the Mahler Festival at The Concertgebouw, Amsterdam, to which the NHK Symphony Orchestra has been invited.

He was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande and Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Royal Concertgebouw Orchestra, and the Saito Kinen Orchestra, while also conducting operas at world's major opera houses. Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera won Grammy awards.

## Christiane Karg, soprano



© Heidi Schmeider

Born in Feuchtwangen, in the Bavarian state of Germany, Christiane Karg studied under Heiner Hopfner and Wolfgang Holzmaier at the Mozarteum University Salzburg. And while still at the university, she made her professional debut at the Salzburger Festspiele in 2006. Until now, she has appeared at the world's renowned opera houses, including the Royal Opera, the Opéra de Paris, the Lyric Opera of Chicago, the

Metropolitan Opera, the Teatro alla Scala, and the Wiener Staatsoper, and has earned high artistic acclaim especially for performing Mozart roles. In February this year, she sang the title



30. NOV. & 1. DEC. 2024

role of Dvořák's *Rusalka* for the first time at the Staatsoper Unter den Linden in Berlin, and won enthusiastic approval.

She is also developing a remarkable talent in singing lieder, and regularly appears at London's Wigmore Hall, as well as at the Great Hall of the Musikverein in Vienna, the Salzburger Festspiele, and the Schubertiade in Schwarzenberg.

The work of Richard Strauss which she will perform with the NHK Symphony Orchestra is one of her absolute favorites, and has actually released a CD in 2014. She will demonstrate the unique world of Richard Strauss lieder with her lyrical resonance and rich expressions.

[Christiane Karg by Naoko Murota, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

**Richard Wagner (1813–1883)**

### ***Tristan und Isolde (Tristan and Isolde)* —Prelude and Liebestod**

A pivotal figure in the history of opera, Wagner founded Musikdrama (music drama) as represented by his *Tristan und Isolde (Tristan and Isolde)* (1859). In this operatic genre for which he wrote both libretto and music, the drama and the music are indissolubly united on an unprecedented level, especially by the scrupulous use of the leitmotifs (recurrent melodic or/ and harmonic elements representing certain situations, feelings or so). *Tristan und Isolde* is about the forbidden love between the knight Tristan and his uncle's wife Isolde. The *Prelude* to Act 1 foretells the tragic and sensual nature of the story with chromatic, ever-lasting melodies and opulent orchestral sound. The first chord heard at the outset is dissonant and unresolved: so-called "Tristan Chord," this is considered in music history a principal which lead the traditional tonal harmony to ruin. *Liebestod (Love-death)* is sung by dying Isolde at the last scene, after Tristan was killed by Isolde's jealous husband. The final B-major chord suggests that their love comes to fulfillment upon their death.

**Richard Strauss (1864–1949)**

---

### ***Das Rosenband Op. 36-1 (The Rose Chain), Freundliche Vision Op. 48-1 (A Welcome Vision), Waldseligkeit Op. 49-1 (Bliss in the Woods), Befreit Op. 39-4 (Released), Morgen Op. 27-4 (Tomorrow)***

Richard Strauss was a precocious musical genius. The son of the principal French horn player at the prestigious Munich Court Orchestra, he began to take piano lessons at age 4 and to compose at age 6 before starting to learn violin at age 8.

Guided by his father's conservative musical taste, Strauss's earliest compositions were modeled after Haydn, Mozart, Beethoven and Schubert. However, from 1880 when the mid-

teenage composer studied the score of the above-mentioned opera *Tristan und Isolde*, he gradually deepened his adoration for Wagner. Voluptuous chromatic harmony, large-scale orchestra and the feeling of endlessness are some of the trademarks of Wagner's music: almost all topflight composers of his and coming generations couldn't skirt the problem of how to absorb and/or break away from his style. As for Strauss, his enthusiasm for Wagnerian late-Romanticism came to the climax with the opera *Salome* (1903–1905).

Besides fifteen operas, Strauss completed over two hundred songs during his exceptionally long productive career. One of his sources of inspiration was the soprano Pauline, whom he married in 1894. The couple also gave duet concerts together promoting his songs in various places. The fact that Pauline retired from singing in 1906 more or less influenced Strauss's career as a song composer from that time forth. The five songs selected for today's concert were penned for voice and piano before 1901, and Strauss himself prepared the orchestral accompaniment versions of the all five.

*Das Rosenband* (*The Rose Chain*) Op. 36-1 (1897/orch.1897, text by F. G. Klopstock) and Schubert's famous song D.280 share the same eighteenth-century poem about "the rose chains which are rustled" so that "she awakes from slumber" and "her life and mine become entwined."

*Fremdliche Vision* (*A Welcome Vision*) Op. 48-1 (1900/orch.1918, text by O. J. Bierbaum), filled with delicate sensibilities, pictures a daydream: in "a meadow full of daisies," "I, together with one who loves me, go to a white house and into the peace full of beauty."

*Waldseligkeit* (*Bliss in the Woods*) Op. 49-1 (1901/orch.1918, text by R. Dehmel) depicts a forest "beginning to rustle as the night approaches the trees." "Under the branches, I am utterly alone."

*Befreit* (*Released*) Op. 39-4 (1898/orch.1933, text by R. Dehmel) is famously quoted in Strauss's autobiographical tone poem *Ein Heldenleben* (*A Hero's Life*) as one of the Hero's representative works. The song with the call "o Glück (o happiness)!" closing each of the three verses, is about a man who addresses his dying wife/sweetheart.

*Morgen* (*Tomorrow*) Op. 27-4 (1894/orch.1897, text by J. H. Mackay) is the last of the four-song set with which Strauss presented Pauline to celebrate their marriage. Predicting their everlasting conjugal bond, the romantic song in bright G major confirms "the Sun will shine again tomorrow" and "we will gaze at each other" "in the silence of happiness."

## Arnold Schönberg (1874–1951)

### ***Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)**

No inventor arises out of nothing but owes more or less to the achievements of his/her forerunners. Born in Vienna 150 years ago, Arnold Schönberg is counted among a handful of revolutionary composers in history by establishing atonal music around the late 1900s, and then the twelve-tone technique (dodecaphony) in 1921. However, the early style of the almost self-taught composer prior to sparking revolutions is characterized by its highly expressive style of late-Romanticism, especially of Wagner, combined with Brahms's Classical sense of form.

Representative of Schönberg's pre-revolutionary period are *Verklärte Nacht* (*Transfigured Night*) Op. 4 (1899) and *Pelleas und Melisande* Op. 5. A turning point arrived in Schönberg's life right before and while he was penning *Pelleas und Melisande* (July 1902 through February 1903): he, with his new wife, moved to Berlin in 1901 to compose for a local cabaret and then to write operettas to earn his living. Impressed by Schönberg's talent, Richard Strauss, one of the musical influentials in Berlin, arranged that the Viennese man should receive the Liszt

Stipendium (scholarship) and obtain a teaching post at the local Stern Conservatory. Thanks to that, Schönberg could lead an artistically fruitful life in Berlin and went back to Vienna in July 1903 with the finished score of the symphonic poem *Pelleas und Melisande* in his hand. It was premiered in 1905 in Vienna under the composer's own baton.

In this work based on the Symbolist play (1893) by the Belgian author Maurice Maeterlinck, Schönberg develops further Wagner's chromatic language. The music meticulously follows Maeterlinck's plot — a story of forbidden love as with the aforementioned *Tristan und Isolde* — with the aid of the Wagnerian leitmotif technique as explained above.

The work is cast in four sections performed without pause, reminding us of the structure of Classical symphony. The first section is set in a mysterious forest at dusk. Soon after it starts, a bass clarinet announces the gloomy, falling “fate” motif which will recur repeatedly throughout the piece. Lost in the forest is Melisande, a young woman of unknown origin. Golaud, the king's grandson, finds her there and wed her. The first appearance of Pelleas (Golaud's younger half-brother) is indicated by a trumpet blowing the rhythmical, bouncy “Pelleas” motif. The lively second section, a scherzo, relates two well-known scenes of the original play: the merry scene at a well into which Melisande accidentally drops her wedding ring, and the sensual scene at the foot of a tower where Pelleas embraces passionately Melisande's long hair hanging down from the tower's high window. The slow third section describes the love scene of Pelleas and Melisande: Golaud finds them and kills Pelleas. The finale has the opening forest music return. Then the stormy atmosphere reflects Golaud's jealous rage. Melisande, worn-out, breathes her last, and the “fate” motif echoes through the brass to recapitulate the story at the close.

### Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2026

Suntory Hall

December

5 (Thu) 7:00pm

6 (Fri) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 57

piano

Nelson Goerner

concertmaster

Yosuke Kawasaki

**Bedřich Smetana**  
*The Bartered Bride*, opera  
 —Overture [7']

**Sergei Rakhmaninov**  
**Piano Concerto No. 3 D Minor**  
**Op. 30** [41']

I Allegro ma non tanto  
 II Intermezzo: Adagio  
 III Finale: Alla breve

— intermission (20 minutes) —

**Modest Mussorgsky /**  
**Maurice Ravel**  
*Pictures at an Exhibition*, suite [35']

Promenade  
 I Gnome  
 Promenade  
 II The Old Castle  
 Promenade  
 III Tuileries: Children's Quarrel after Games  
 IV Cattle  
 Promenade  
 V Ballet of Unhatched Chicks  
 VI Samuel Goldenberg and Schmuyle  
 VII Limoges: The Market  
 VIII Catacombs: Roman Tomb  
 IX The Hut on Hen's Legs: Baba Yaga  
 X The Great Gate of Kiev

- All performance durations are approximate.

B

5 &amp; 6, DEC. 2024

## Nelson Goerner, piano



Born in San Pedro, Argentina in 1969, Nelson Goerner won first prize at the Franz Liszt International Competition in Buenos Aires in 1986. With the scholarship awarded by this victory, he studied at the Geneva Conservatory, and in 1990, he won the Geneva International Music Competition. Since then he has been Geneva-based for many years, performing in recitals at the world's celebrated concert halls as well

as working with world's famed orchestras. He also enthusiastically performs chamber music, together with renowned artists such as Martha Argerich on a regular basis. In the 2024–25 season, he is touring throughout Europe with the trio he has newly formed with Ning Feng and Edgar Moreau.

He has released many recordings of a unique repertoire from the Fryderyk Chopin Institute in Warsaw, where he serves as an Artistic Advisory Committee member. Along with other recordings, he has received many awards, including the Diapazon d'Or.

On this visit, he will play Rakhmaninov's Piano Concerto No. 3, the work he has recorded in the past and which has been highly evaluated. I am sure he will captivate his audience with an energetic and passionate performance.

[Nelson Goerner by Haruka Kosaka, music journalist]

---

### Program Notes | Kumiko Nishi

---

#### Bedřich Smetana (1824–1884)

### *The Bartered Bride*, opera—Overture

From the mid-19th century onward, the classical music world saw an increasing momentum toward nationalism. Composers from Northern and Eastern Europe, Spain and Russia derived inspiration from their nation's folktales, nature, history and so forth. Existing folksongs or/and folkdances served frequently as their compositional materials.

A crucial figure of this movement was the Bohemian composer Smetana. Born in Litomyšl, a Czech town then ruled by the Austrian Empire, he is considered the father of the Czech nationalist school in music. He is remembered especially with his patriotic orchestral cycle *My Fatherland* and eight Czech-language operas: the most popular among them is *The Bartered Bride*, a comic opera first staged in 1866 in Prague.

Set in a Bohemian countryside, the opera's story features the peasant's daughter Mařenka and her boyfriend Jeník who conceals his real identity. Mařenka's parents try to marry her to Vašek, the wealthy landowner's son. However, Jeník's quick-wittedness leads to a happy ending for the young couple. The vivacious *Overture* at a tremendous velocity is a sonata with the F-major first subject and the C-major second subject, both introduced by the whole orchestra. This music will return at the second act's finale where, in the presence of amazed villagers, Jeník signs a contract for money. Although it specifies that Mařenka must wed "the landowner's son," Jeník will later reveal that he is actually the landowner's missing son by a former marriage.

## Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30

Born into a Russian noble family, Rakhmaninov lived a stormy life. He passed away in California, USA, a quarter of a century after he bid forever farewell in 1918 to his motherland ruled by the Soviets. Of all his piano concertos including *Rhapsody on a Theme of Paganini* (1934), the first three (Nos. 1 to 3) were penned before he escaped his beloved native land. Interestingly enough, these works of his pre-exile period already brim with a distinctive melancholy of the composer that commentators have often associated with his homesickness in exile.

Rakhmaninov, one of the greatest concert pianists in history as well, wrote the Piano Concerto No. 3 for himself in the summer of 1909 at his summer residence in Ivanovka, Russia. His plan was to play the work during his upcoming first American tour. He indeed premiered it with the New York Symphony Orchestra led by Walter Damrosch in November 1909 in New York. Rakhmaninov famously played it again there in January 1910 with Gustav Mahler conducting the New York Philharmonic. A well-known and astonishing episode says that Rakhmaninov learned the ultra-virtuosic solo part on board a transatlantic ship with a silent dummy keyboard for lack of preparation before the voyage.

The Piano Concerto No. 3 is an eloquent witness of Rakhmaninov's reliance on the Western 19th-century Romantic idioms. This was unswerving during his long life treading in the footsteps of Tchaikovsky who trained Rakhmaninov's composition teacher Taneyev. The Piano Concerto No. 3 casts in the classical three-movement form. What gives the whole piece a sense of unity is the opening sonata movement's principal theme: this melody with a touch of pathos, introduced by the pianist immediately after the short orchestral introduction, will recur through the entire work undergoing perceptible or imperceptible metamorphosis. The middle movement is followed seamlessly without break by the finale which leads D-minor to D-major.

### Modest Mussorgsky (1839–1881) / Maurice Ravel (1875–1937)

## *Pictures at an Exhibition, suite*

Russian composer Mussorgsky is well-known as a member of The Mighty Handful a.k.a The Five, along with Rimsky-Korsakov, Borodin, Cui and their leader Balakirev. The most active around 1870, this Saint-Petersburg-based circle of young composers shared an aspiration to form and develop a nationalist school of Russian classical music following their precursor Glinka (1804–1857). One of the group's stances was the anti-academic one: Mussorgsky was indeed self-trained except for some short-term instruction he received from Balakirev. As a result, Mussorgsky's highly individual style and idioms were nurtured to the extent of guiding future generations to modernism: Debussy (1862–1918) and Shostakovich (1906–1975) famously modeled themselves after him with admiration.

Mussorgsky originally wrote the *Pictures at an Exhibition* for piano solo in 1874, shortly after visiting the memorial exhibition of the late architectural designer and painter Victor Hartmann, his close friend. In fact, this suite consists of several short movements evoking different pictures, inserting the recurring *Promenade* movement between them. This structure makes us feel as if someone—or we—rambled at a gallery and stopped in front of each work of art.

This masterwork-to-be was never performed publicly nor published during the composer's lifetime. It appeared in print for the first time in 1886 with revisions by Rimsky-Korsakov.

Though there exist numerous orchestral arrangements of this work, the ingeniously colorful one by Ravel (based on the Rimsky-Korsakov version) surely provided it with a high popularity.

Ravel the Magician of Orchestration had a creative idea of entrusting the first statement of *Promenade* to a trumpet solo and putting forward the brass section during this opening piece. I *Gnome* is described with staggering-like melodies. After the second *Promenade*, Ravel lets an alto saxophone sing a medieval troubadour's song at II *The Old Castle*. The third *Promenade* and III *Tuileries (Children's Quarrel after Games)* are followed by IV *Cattle*, a heavy movement with a tuba (replaced by a euphonium for today's concert). The fourth *Promenade* comes in a minor mode. Ravel makes good use of flutes at lilting V *Ballet of Unhatched Chicks*, before VI *Samuel Goldenberg and Schmuyle* where forceful strings in unison embody Samuel, rich and arrogant, and a muted trumpet Schmuyle, poor and servile. VII *Limoges, The Market* is a sort of scherzo. The brass play an active part in eerie VIII *Catacombs (Roman Tomb)*, followed seamlessly by *With the Dead in a Dead Language*, a variation of *Promenade*. For IX *The Hut on Hen's Legs* with tic tac rhythm, Mussorgsky was inspired by Hartmann's drawing of a clock in the shape of the Russian witch Baba Yaga's hut. X *The Great Gate of Kiev* is based on Hartmann's design for Kiev's city gates. In an almost sacred central part, church-like bells are heard and the *Promenade's* theme is recalled evoking Russian Orthodox hymns, which effectively prepares the majestic conclusion of this finale.

B

5 & 6, DEC. 2024

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 60

## C

Concert No.2027

NHK Hall

December

13 (Fri) 7:00pm

14 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 57

tenor

Christopher Ventris★○

male chorus

Tokyo Opera Singers★ (Akihiro Nishiguchi, chorus master)

concertmaster

Yosuke Kawasaki

○Changed from initially scheduled.

## Franz Liszt

**Tasso: Lamento e trionfo, sym. poem** (Tasso: Lament and Triumph) [19']

— intermission (20 minutes) —

## Franz Liszt

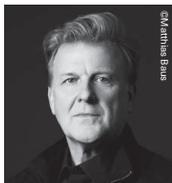
**Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern (A Faust Symphony in Three Character Pictures)★** [65']

- I Faust
- II Gretchen
- III Mephistopheles

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

## Christopher Ventris, tenor



©Matthew Baun

British tenor Christopher Ventris is one of world's most renowned Wagnerian singers. He has frequently appeared at the major opera houses in the world, including the Bayreuther Festspiele and Wiener Staatsoper, performing the roles he has been especially known for, such as Siegmund in *Der Walküre* and the title role in *Parsifal*. Most recently, he sang the role of Siegmund in Wagner's *Ring Cycle* performed by the

Dallas Symphony Orchestra conducted by Fabio Luisi in October this year.

Other successful roles include the title role in Britten's *Peter Grimes*, the Drum Major in Berg's *Wozzeck*, Jimmy Mahoney in Weill's *The Rise and Fall of the City of Mahagonny*, and Laca in Janacek's *Jenůfa*. He has appeared at the Teatro alla Scala, the Royal Opera House, Covent Garden, the Opernhaus Zürich, the Deutsche Oper Berlin, the Bayerische Staatsoper,

the Opéra national de Paris, and the Metropolitan Opera, and worked with famed conductors, including Bernard Haitink, Marek Janowski, Semyon Bychkov, Simon Rattle, Fabio Luisi, Christian Thielemann, Franz Welser-Möst, Yannick Nézet-Séguin, and Andris Nelsons. This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

---

## Tokyo Opera Singers, male chorus

Tokyo Opera Singers was formed in 1992 by mid-career and young vocalists active mainly in Tokyo in response to the wish of the late Seiji Ozawa to create a world-class chorus. The chorus continuously appeared in the Saito Kinen Festival Matsumoto (presently called Seiji Ozawa Matsumoto Festival) from the same year, and in Spring Festival in Tokyo from 2004.

It also worked with overseas orchestras and opera companies such as the Wiener Philharmoniker (conducted by Simon Rattle and Seiji Ozawa), the Chicago Symphony Orchestra (conducted by Riccardo Muti), and the Bayerische Staatsoper (conducted by Wolfgang Sawallisch) on their tour in Japan. The chorus has received high artistic acclaim from overseas and performed at the Edinburgh International Festival (1999), the China Shanghai International Arts Festival (2018), the Shanghai Symphony Orchestra Concert (2019), and “Meet in Beijing” International Arts Festival (2020).

Since its first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in *the Creation* (oratorio) in 2009, it has frequently appeared with the orchestra, including the year-end Beethoven 9th Symphony concerts. It also has worked with the NHK Symphony Orchestra in the Spring Festival in Tokyo from 2010 when the Wagner series started, and in March 2024, has shown a weighty presence with powerful singing in *Tristan und Isolde* (concert style) conducted by Marek Janowski. I am sure Tokyo Opera Singers will delight the audience with its dynamic performance in *Eine Faust-Symphony*.

[Tokyo Opera Singers by Junko Shibatsuji, music critic]

---

### Program Notes | Kumiko Nishi

---

**Franz Liszt (1811–1886)**

---

## ***Tasso: Lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)**

“New wine demands new bottles”— the Hungarian Romantic composer Franz Liszt said this regarding one of his inventions, the “symphonic poem” (*Symphonische Dichtung*). He coined the term in the early 1850s to designate his single-movement orchestral works presenting extra-musical concepts. Among all his thirteen symphonic poems, the twelve including *Tasso* date from the period when Liszt was based in Weimar, Germany (1848–1861).

*Tasso* was premiered in 1849 in Weimar as the orchestral overture to a staging of the play *Torquato Tasso* by Johann Wolfgang von Goethe (1749–1832). The event was to commemorate

the German poet's 100th birthday. Liszt later made revisions to it and labeled the 1854 definitive version a symphonic poem.

Inspired by not only Goethe but also Lord Byron (1788–1824), the musical piece is a tribute to Torquato Tasso (1544–1595), the Renaissance Italian poet who served the Este court in Ferrara. Liszt describes Tasso's tragic life full of inner conflicts at the opening section in C minor. Following the central section in the style of minuet, the final section in C major praises Tasso's posthumous lustrous fame. The principal theme is given as a plaintive tune on a bass clarinet after the introduction, before being transformed diversely throughout the piece. This melody is from a song that Liszt heard gondoliers in Venice sing on Tasso's strophes. In the preface to the score, Liszt with deep emotion reminds the readers that the poet's glory is still alive in Venetian folk music.

## Franz Liszt

### ***Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*** ***(A Faust Symphony in Three Character Pictures)***

Johann Wolfgang von Goethe is the great German writer and polymath who also served as the Privy Councilor of Duchy of Saxe-Weimar. His oeuvre was, for Franz Liszt, an inexhaustible source of inspiration. Well-versed in literature, the composer dreamed long of writing a musical work based on Goethe's magnum opus *Faust* of which the Part One was first published in 1808 (the Part Two in 1832 after the author's death).

According to the recollection of Hector Berlioz (1803–1869), he and Liszt first met on December 4th, 1830 on the day before the world premiere in Paris of the French composer's *Symphonie fantastique*: he then asked Liszt if he had ever read *Faust*. Intrigued, Liszt became a voracious reader of this dramatic work before long. Following an incubation of the idea over many years, Liszt set to work on *Eine Faust-Symphonie (A Faust Symphony)* in August 1854 and completed the first version within merely two months. The highly possible catalysts for the composition were Robert Schumann's *Szenen aus Goethes Faust (Scenes from Goethe's Faust)* of which Liszt conducted the excerpts in 1849 (along with the premiere of the above-mentioned *Tasso* on Goethe's centenary in Weimar, then Liszt's base) as well as Berlioz's *La damnation de Faust (The Damnation of Faust)* conducted by Berlioz himself in Weimar in 1852. The British author George Eliot's visit to Weimar in August 1854 to research Goethe is thought to have directly motivated the Hungarian composer to put pen to paper.

Liszt later revised *Eine Faust-Symphonie* for a larger orchestra adding to it the final "Chorus Mysticus" based on a chorus which concludes Goethe's *Faust*, so the symphony received the premiere in 1857 at the inauguration of the Goethe–Schiller Monument in Weimar. On the first edition published in 1861, the work is dedicated to Berlioz in return for his dedication of *The Damnation of Faust* to Liszt.

The three movements of *A Faust Symphony* portray respectively the three principal characters of *Faust*, instead of relating the drama's plot. The first movement entitled *Faust* opens with an introduction giving the atonal first theme on the cellos and violas. Utilizing equally all twelve notes of the chromatic scale, this modernistic theme evokes Faust's anguished and contemplative nature. The following four themes assist it in describing his multidimensional personality in the main sonata section. Contrastive, the middle movement *Gretchen* embodies the piousness and innocence of Faust's beloved. The last movement *Mephistopheles* parodies the first movement's elements in a hideous manner, alluding to



13 & 14, DEC. 2024

the demon that negates and ridicules every single thing. The symphony's conclusion is the aforesaid "Chorus Mysticus" sung by a tenor solo and a male chorus praising "the eternal-feminine which leads us aloft": the evil is defeated, and Faust's soul is saved by Gretchen's prayer up in Heaven.

C

13 & 14, DEC. 2024

## Kumiko Nishi

---

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 60

# The Subscription Concerts Program 2024–25

2024  
12

**A** Concert No. **2025**  
**Nov. 30** (Sat)  
 6:00pm  
**Dec. 1** (Sun)  
 2:00pm  
 – The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.  
 NHK Hall

**The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Birth**  
**Wagner** *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*)—*Prelude and Liebestod*  
**R. Strauss** *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)\*  
**R. Strauss** *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)\*  
**R. Strauss** *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)\*  
**R. Strauss** *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)\*  
**R. Strauss** *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)\*  
**Schönberg** *Pelleas and Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)  
 Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano\*

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

**B** Concert No. **2026**  
**December**  
**5** (Thu) 7:00pm  
**6** (Fri) 7:00pm  
 Suntory Hall

**Smetana** *The Bartered Bride*, opera—Overture  
**Rakhmaninov** Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30  
**Mussorgsky / Ravel** *Pictures at an Exhibition*, suite  
 Fabio Luisi, conductor  
 Nelson Goerner, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. **2027**  
**December**  
**13** (Fri) 7:00pm  
**14** (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall

**Liszt** *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)  
**Liszt** *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*  
 (*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)\*  
 Fabio Luisi, conductor  
 Christopher Ventris, tenor\*\* Tokyo Opera Singers, male chorus\*  
 ♦ Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

2025  
01

**A** Concert No. **2028**  
**January**  
**18** (Sat) 6:00pm  
**19** (Sun) 2:00pm  
 NHK Hall

**The 50th Anniversary of Dmitry Shostakovich's Death**  
**Shostakovich** Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*  
 Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

**B** Concert No. **2030**  
**January**  
**30** (Thu) 7:00pm  
**31** (Fri) 7:00pm  
 Suntory Hall

**Mussorgsky / Liadov** *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak*  
**Bartók** Violin Concerto No. 2  
**Dvořák** Symphony No. 8 G Major Op. 88  
 Tugan Sokhiev, conductor  
 Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. **2029**  
**January**  
**24** (Fri) 7:00pm  
**25** (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall

**Stravinsky** *Pulcinella*, ballet  
**Brahms** Symphony No. 1 C Minor Op. 68  
 Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2025  
02

**A** Concert No. **2031**  
**February**  
**8** (Sat) 6:00pm  
**9** (Sun) 2:00pm  
 NHK Hall

**Zemlinsky** *Sinfonietta*, Op. 23  
**R. Strauss** Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11  
**Dvořák** *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110  
**Janáček** *Sinfonietta*  
 Petr Popelka, conductor  
 Radek Baborák, horn

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

**B** Concert No. **2032**  
**February**  
**13** (Thu) 7:00pm  
**14** (Fri) 7:00pm  
 Suntory Hall

**Mozart** *Vado, ma dove?*, aria K. 583\*  
**Mozart** *Alma grande e nobil core*, aria K. 578\*  
**Mozart** Symphony No. 25 G Minor K. 183  
**Mozart** *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528\*  
**Schumann** Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie*  
 (*Spring Symphony*)  
 Petr Popelka, conductor Emma Nikolovska, mezzo soprano\*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. **2033**  
**February**  
**21** (Fri) 7:00pm  
**22** (Sat) 2:00pm  
 NHK Hall

**Suppé** *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)  
**Saint-Saëns** Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61  
**Suppé** *Dichter und Bauer*, operetta—Overture (*Poet and Peasant*)  
**Offenbach / Rosenthal** *Gaité Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)  
 Tatsuya Shimono, conductor  
 Fumiaki Miura, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2025  
04

**A** Concert No. 2034

**April**

12 (Sat) 6:00pm

13 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Berlioz** *Harold en Italie*, symphony (*Harold in Italy*)\*  
**Prokofiev** Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)

Paavo Järvi, conductor  
Antoine Tamestit, viola\*

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

**B** Concert No. 2035

**April**

17 (Thu) 7:00pm

18 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Stravinsky** *Petrushka*, ballet (Complete, 1947 Version)  
**Britten** Piano Concerto Op. 13  
**Prokofiev** *The Love for Three Oranges*, symphonic suite Op. 33bis

Paavo Järvi, conductor  
Benjamin Grosvenor (Britten), Kanon Matsuda (Stravinsky), piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C**

**There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.**

2025  
05

**A** Concert No. 2036

**April**

26 (Sat) 6:00pm

27 (Sun) 2:00pm

- Program A of the May subscription concerts will be held in April.

NHK Hall

**The Program scheduled to be performed in NHKSO Europe Tour 2025**

**Mahler** Symphony No. 3 D Minor

Fabio Luisi, conductor  
Olesya Petrova, mezzo soprano  
Tokyo Opera Singers, female chorus  
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

Ordinary	Youth
S 15,000	S 7,000
A 12,500	A 6,000
B 10,000	B 5,000
C 8,000	C 4,000
D 6,500	D 3,000
E 4,500	E 2,000

**B** Concert No. 2037

**May**

1 (Thu) 7:00pm

2 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**The Program scheduled to be performed in NHKSO Europe Tour 2025**

**Berg** Violin Concerto  
**Mahler** Symphony No. 4 G Major\*

Fabio Luisi, conductor  
Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano\*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. 2038

**May**

30 (Fri) 7:00pm

31 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Schubert** *Rosamunde*, overture  
**Dohnányi** *Variations on a Nursery Tune*, Op. 25\*  
**R. Strauss** Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten* (*The Woman without a Shadow*)

**R. Strauss** Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)  
Giedrė Šlekytė, conductor  
Mao Fujita, piano\*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025  
06

**A** Concert No. 2039

**June**

7 (Sat) 6:00pm

8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Rimsky-Korsakov** *May Night*, opera—Overture  
**Rakhmaninov** *Rhapsody on a Theme of Paganini*, Op. 43\*  
**Tchaikovsky** Symphony No. 6 B Minor Op. 74, *Pathétique*

Vladimir Fedoseyev, conductor  
Yulianna Avdeeva, piano\*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

**B** Concert No. 2040

**June**

12 (Thu) 7:00pm

13 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Ibert** Flute Concerto  
**Bruckner** Symphony No. 6 A Major

Juanjo Mena, conductor  
Karl-Heinz Schütz, flute

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

**C** Concert No. 2041

**June**

20 (Fri) 7:00pm

21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Korngold** Violin Concerto D Major Op. 35  
**Mahler** Symphony No. 1 D Major, *Titan*

Tarmo Peltokoski, conductor  
Daniel Lozakovich, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で  
放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも



お楽しみいただけます!

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ  
※2 地域の一部は延長2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧くださいませ

※放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に

## スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

### NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <https://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる!  
**聴き逃し**

放送終了後1週間/  
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

## 伝えるチカラ

# NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ  
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

## NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、NHKとNHK交響楽団で実施している出前授業。全国各地の学校を訪ねミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に目を輝かせる子どもたちそして、素顔のN響メンバーに出会えるコンサートです。

各公演の動画がホームページでご覧いただけます



<https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/>

# N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

## 子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組みなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

## 優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに関わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

### 指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

### N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨

ヴァイオリン：和田志織 コントラバス：桑原孝太郎  
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎  
(2024年12月1日現在)

## 病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。

## 国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

## 大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したガイドライン作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

# 役員等・団友

## 役員等

理事長	中野谷 公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷真美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策		濱村和則					
評議員	稲葉延雄	江頭敏明	樺山絃一	菅原直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	中嶋太一	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

## 事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	特別主幹	芸術主幹
岩渕一真	森下文典	野村 歩	吉田麻子	西川彰一
丸山千絵	黒川大亮	関山幸弘	今村啓一	
石井 康	猪股正幸	浅田武志	杉山真知子	技術主幹
利光敬司	吉賀亜希	目黒重治		
	宮崎則匡	山本能寛	尾澤 勉	

## 団友

鶴我裕子	チェロ	北島 章	北村源三	ピアノ	入江哲之
徳永二男		浜 道晃	来馬 賢		金沢 孝
中瀬裕道	岩井雅音	茂木大輔	関山幸弘	本荘玲子	小林文行
名譽コンサート マスター	永峰高志		津堅直弘		清水永一郎
	根津昭義	クラリネット	板本浩規	理事長	関 照枝
堀 正文	堀江 悟	磯部周平	福井 功		中馬 究
	前澤 均	加藤明久	佛坂咲千生	曾我 健	出口修平
	宮里親弘	横川晴児		田畑和宏	西村集介
ヴァイオリン	武藤伸二	ファゴット	トロンボーン	野島直樹	芳賀由明
	村上和邦			日向英爽	松崎ユリ
板橋 健	村上和邦	フアゴット	伊藤 清	木田幸紀	望戸一男
梅澤美保子	山口裕之		神谷 敏	森 茂雄	諸岡 淳
海野義雄	蓬田清重	岡崎耕治	栗田雅勝	今井 環	吉田博志
大澤 淨		霧生吉秀	三輪純生	根本佳則	渡辺克
大林修子	ヴィオラ	菅原恵子		チューバ	渡辺克己
大松八路	井戸田善之				
金田幸男	志賀信雄	ホルン	テューバ	役員	
川上朋子	佐川裕昭				
川上久雄	新納益夫	大野良雄	多戸幾久三	加納民夫	
窪田茂夫		中島大之	原田元吉	唐木田信也	
黒柳紀明	フルート	樋口哲生		斉藤 滋	
公門俊之	菅原 潤	松崎 裕	打楽器	関川精二	
齋藤真知亜	田渕雅子	山田桂三		鳴嶋郁夫	
酒井敏彦	中竹英昭	山本 真	有賀誠門	原 武	
清水謙二	宮本明恭		岡田知之	山崎大樹	
鈴木弘一	三原征洋		瀬戸川 正		
田渕 彰	村山 弘	トランペット	百瀬和紀	事務局	
田中 裕	山田雄司				
	渡部啓三	青山聖樹	井川明彦	稲川 洋	

フィルハーモニー2024年12月号 | 第96巻 第9号  
2024年12月1日発行 ISSN 1344-5693

## 公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49  
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278  
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (財)NHK財団  
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング  
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

# ともに創る未来へ。-Challenge SEITOKU-

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越する挑戦で、新しい価値を創る力を。



「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

## Field Linkage® (フィールド・リンケージ®)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムで、多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を育成します。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

## Business Field Linkage® (ビジネス・フィールド・リンケージ®)

高度な専門的学びを実社会（ビジネス社会）と結び付け主体的に活躍していくための実践的能力を身につけるプログラム。  
新しい時代に活躍できるリーダーを育成します。

## 2021～2024年実就職率 全国女子大学ランキング



実就職率97.4%

(卒業生数786名、就職者数762名、大学院進学者数4名)

※2024年大学通信調べ。数値は大学のみ。卒業生数500人以上

○実就職率=就職者数÷[卒業(修了)者数-大学院進学者数]×100



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

# 聖徳大学

# 聖徳大学短期大学部

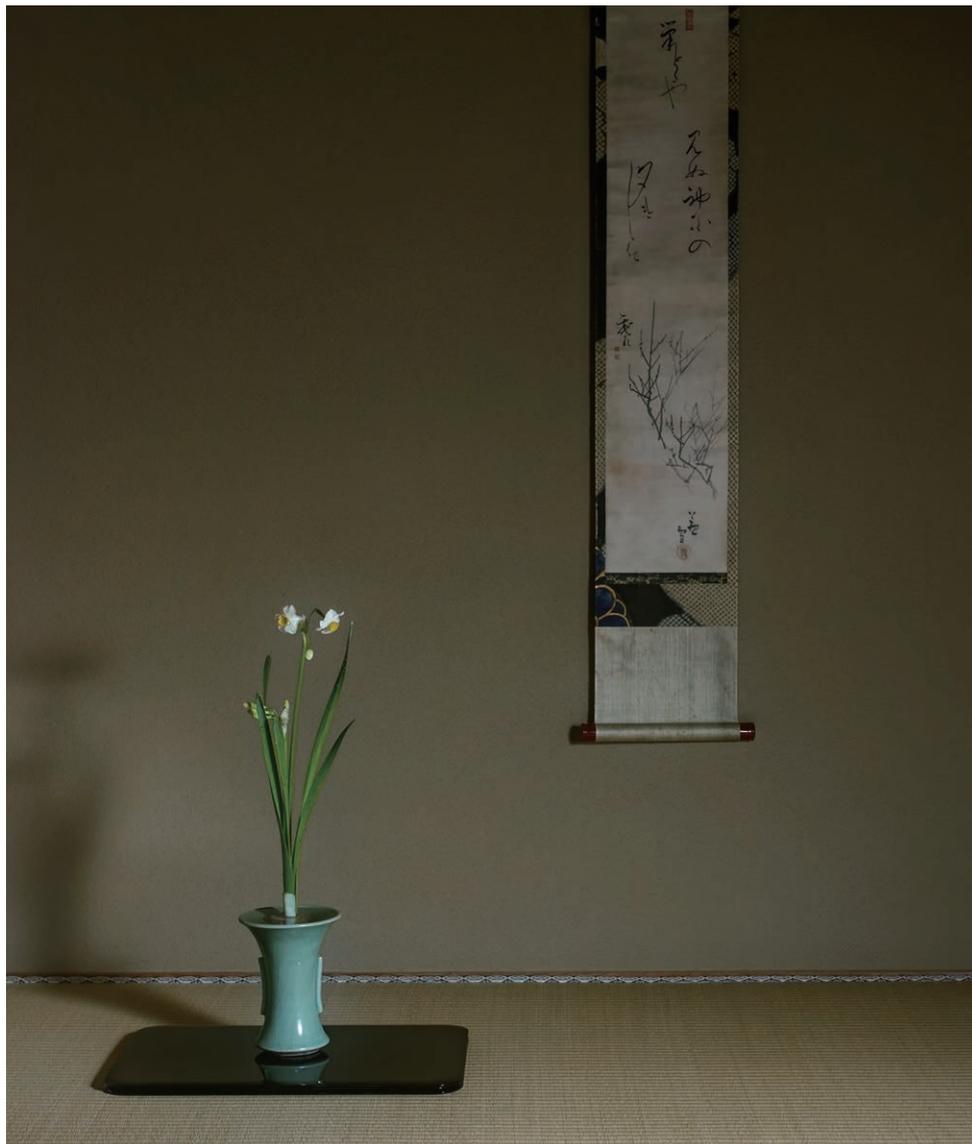
〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)  
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学  
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院  
音楽文化研究科  
[博士前期・後期課程](共学)

## ～聖徳大学グループ～

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校  
光英VERITAS高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英VERITAS中学校  
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園  
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園  
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー(SOA)



水仙／青磁尊形管耳瓶 明時代 | 珠寶 花土



骨董 古美術の楽しみをつたえる「目の眼」  
[menomeonline.com](http://menomeonline.com)

目  
の眼

東京春祭

Spring Festival in Tokyo

指揮: マレク・ヤノフスキ

アムフォルタス: クリスティアン・ゲルハーヘル

テイトウレル: 水島正樹

グルネマンツ: タレク・ナズミ

パルジファル: スチュアート・スケルトン

クリングゾル: シム・インスン

クンドリ: ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー

聖杯騎士: 大槻孝志、杉浦隆大

小姓: 秋本悠希、金子美香、土崎 譲、谷口耕平

クリングゾルの魔法の乙女たち:

相原里美、今野沙知恵、杉山由紀、

佐々木麻子、松田万美江、鳥谷尚子

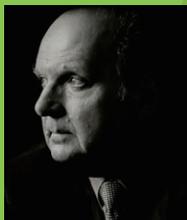
アルトの声: 金子美香

管弦楽: NHK交響楽団

合唱: 東京オペラシンガーズ

合唱指揮: エベルハルト・フリードリヒ  
西口彰浩

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン



Marek Janowski@Felix Broede

東京春祭ワグナー・シリーズ vol.16

# パルジファル

(演奏会形式)

全3幕 / ドイツ語上演・日本語字幕付 上演時間: 約5時間(休憩含む)

2025 **3.27** [木] 15:00 **3.30** [日] 15:00 **東京文化会館 大ホール**  
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

こちらも必聴! 東京春祭で聴く、もう一つの「ヤノフスキ×N響」

東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.12

ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》 **4.4** [金] 19:00

東京文化会館 大ホール **4.6** [日] 15:00

S ¥17,500 A ¥15,000 B ¥13,000 C ¥11,000 D ¥9,000 E ¥7,000 U-25 ¥3,000

指揮: マレク・ヤノフスキ  
ソプラノ: アドリアナ・ゴンザレス  
メゾソプラノ: ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー  
テノール: スチュアート・スケルトン  
バス: タレク・ナズミ  
管弦楽: NHK交響楽団  
合唱: 東京オペラシンガーズ

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

[www.tokyo-harusai.com](http://www.tokyo-harusai.com)

(座席選択可・登録無料)

※U-25は2月14日[金]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)



チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

N響ガイド 0570-02-9502

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00) ※音楽祭開催期間中は土・日・祝日を含め10:00-19:00

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 後援:日本ワグナー協会(パルジファル公演) 助成:公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド



特別ゲスト:高橋英樹



司会:田添菜穂子

指揮:広上淳一  
ヴァイオリン:三浦文彰\*  
管弦楽:NHK交響楽団  
特別ゲスト:高橋英樹  
司会:田添菜穂子

& 名曲コンサート

# N響音

# 大河ドラマ

Taiga Drama & Masterpiece Concert

2025年3月7日[金]7:00pm  
東京オペラシティ コンサートホール

(京王新線初台駅東口 徒歩5分) ※2時間程度の公演です

発売開始日 2025年1月14日[火]10:00am(一般発売)  
2025年1月9日[木]10:00am(定期会員先行発売)

料金 全て税込/全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥12,000	¥10,000	¥7,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥6,000	¥5,000	¥3,500	¥2,500

- 定期会員は一般料金から10%割引。
- B席・C席はステージの一部が見えづらい席となります。

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>  
N響ガイド 0570-02-9502  
チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)  
e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)  
ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

主催:NHK/NHK交響楽団

曲目

[第1部:大河ドラマ編]

- 青天を衝け(2021/佐藤直紀)
- 軍師官兵衛(2014/菅野祐禰)
- 麒麟がくる(2020/ジョン・グラム)
- 翔ぶが如く(1990/一柳慧)
- 篤姫(2008/吉良良)
- 元禄太平記(1975/湯浅譲二)
- 草燃える(1979/湯浅譲二)
- 徳川慶喜(1998/湯浅譲二)
- 真田丸(2016/服部隆之)\*
- べらぼう~葛重栄華乃夢啼~(2025/ジョン・グラム)

[第2部:「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

- ヴァイオリン協奏曲 第1番イ短調 BWV1041(バッハ)\*
- 組曲「水の上の音楽」から第1、3、4、6曲(ヘンデル/ハーテル編)
- ワルツ「美しく青きドナウ」(ヨハン・シュトラウスII世)
- 組曲「ミシシッピ」から「マルディ・グラ」(グロメ)



© Masaaki Tomitori

© Yuji Hori

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「コース登録」が必須となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。  
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。  
※申しす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。  
※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。  
※未成年児のご入場はお断りしています。

お問い合わせ: **N響ガイド 0570-02-9502**

営業時間:10:00am~5:00pm(定休日:土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は、曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。  
※電話受付のみの営業となります。

※むやみでなく理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。  
※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Follow us on



[nhkso.or.jp](https://nhkso.or.jp)



かんぽ生命 presents

# N響 第九

## Special Concert

バッハ／トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540

Bach Toccata and Fugue F Major BWV 540

オルガン：中田恵子  
Keiko Nakata, organ

ベートーヴェン

## 交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年12月23日(月) 7:00pm

サントリーホール

Monday, December 23, 2024 Suntory Hall

一般：S¥20,000 A¥16,500 B¥13,000 C¥9,000

ユースチケット(29歳以下)：S¥10,000 A¥8,200 B¥6,500 C¥4,500 ※全て税込価格

チケット発売開始：9月29日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日：9月25日(水) 10:00am [定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・営業時間とはN響ホームページでご確認ください)

前売所

- WEBチケットN響 ..... <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド ..... 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター ..... 0570-55-0017 [suntory.jp/HALL/](https://suntory.jp/HALL/)
- チケットびあ ..... [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)
- e+ (イープラス) ..... [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)
- ローソンチケット ..... [l-tike.com/nhkso](https://l-tike.com/nhkso)

- ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。● 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。● N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。● やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 未就学児のご入場はお断りしています。● 公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

© Yusuke Miyazaki(SEPT)

指揮：ファビオ・ルイージ  
(NHK交響楽団 首席指揮者)

Fabio Luisi, conductor



ソプラノ  
ヘンリエット・  
ボンデ・ハンセン  
Henriette  
Bonde-Hansen,  
soprano



メゾ・ソプラノ  
藤村実穂子  
Mihoko Fujimura,  
mezzo soprano



テノール  
ステュアート・  
スケルトン  
Stuart Skelton,  
tenor



バス・バリトン  
トマス・トマソン  
Tómas Tómasson,  
bass-baritone

合唱：新国立劇場合唱団  
New National Theatre Chorus, chorus



かんぽ生命

主催：NHK交響楽団  
特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

NHKSO  
NHK SYMPHONY ORCHESTRA  
TOKYO



# N響第9

NHK交響楽団

ベートーヴェン「第9」演奏会  
Beethoven 9th Symphony Concerts

ベートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調  
作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年 12/18(水)7:00pm | 12/19(木)7:00pm

12/21(土)2:00pm | 12/22(日)2:00pm | 12/24(火)7:00pm\*

NHKホール

\*12月24日はNHK/NHK厚生文化事業団主催の  
チャリティコンサートです

指揮: **ファビオ・ルイーヂ**  
(NHK交響楽団 首席指揮者)

合唱: 新国立劇場合唱団

©Yusaku Miyazaki (SEFT)



ソプラノ:  
ヘンリエッテ・  
ボンデ・ハンセン



メゾ・ソプラノ:  
藤村 実穂子



テノール:  
スチュアート・  
スケルトン



バス・バリトン:  
トマス・トマソン

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

(営業日・営業時間は

N響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955

(24日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団  
主催(24日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社  
はごろもフーズ株式会社  
株式会社明電舎

チケット発売開始

9月29日(日)10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月25日(水)10:00am

料金(税込)

一般 S ¥17,000 A ¥13,500 B ¥10,000 C ¥7,500 D ¥5,000

ユースチケット(29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

ユースチケット対象年齢を拡大。25歳以下→29歳以下に ※定期会員は一般料金から10%割引

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](https://eplus.jp/nhkso)

N響ガイド 0570-02-9502

ローンチケット [t-tike.com/nhkso](https://t-tike.com/nhkso)

チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](https://pia.jp/t/nhkso)

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(24日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

# 水素で夢を実現。



## 2025年大阪・関西万博 水素の船から見える未来

時代はカーボンニュートラルへ。その夢に向け、私たちは切り拓いた。

水素をつくり、はこび、つかう。

その一つ一つのチャレンジが実を結び夢への軌跡を描いていく。

2025年、水素エネルギーが大きく動き出す。

水素でつなごう。人と、世界と、そして、夢を。



船の仕組みや  
・ルートは  
こちらから



岩谷産業は、  
2025年大阪・関西万博を  
応援しています。

# Iwatani

岩谷産業株式会社